
東 松 山 市

西 浦 遺 跡 Ⅲ

一般国道407号整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

2 0 1 8

埼 玉 県

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県中央部に位置する川越・比企地域では、関越道と圏央道が結節し、国道16号・254号・407号が広域幹線道路網を形成しています。このような利点を生かし産業基盤の整備や企業誘致を進めるためには、幹線道路網の更なる整備と充実が重要です。今回の一般国道407号の整備工事もその一環として行われたものです。

一般国道407号建設地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数所在しており、これまでに山王裏遺跡・上川入遺跡・野本氏館跡などの調査が実施されてきました。今回発掘調査を行った西浦遺跡もそのひとつです。発掘調査は同事業に伴う事前調査であり、埼玉県の委託を受け、当事業団が実施しました。

西浦遺跡の南に位置する野本氏館跡は、御家人として源頼朝に仕えた野本基員の館跡と伝わっています。発掘調査の結果、調査区からは中世の溝跡や土壇、柱穴群などが検出されました。それらの多くが野本氏館跡と関わりの深いものと考えられます。当地の中世における土地利用や館の在り方を知るうえで、貴重な発見となりました。

本書は、これらの発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、埼玉県県土整備部道路街路課、埼玉県東松山県土整備事務所、東松山市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 塩 野 谷 孝 志

例 言

1. 本書は東松山市下野本地内に所在する西浦遺跡第6次調査の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

西浦遺跡 (No.34-168)
埼玉県東松山市大字下野本684番地1
平成28年6月3日付け教生文第2-17号
3. 発掘調査は、社会資本整備総合交付金(改築)事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、埼玉県の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 事業の委託事業名は、下記のとおりである。

発掘調査事業
「社会資本整備総合交付金(改築)工事(西浦遺跡埋蔵文化財発掘調査業務委託)」
整理報告書作成事業
「道路改築工事(西浦遺跡埋蔵文化財整理報告書刊行業務委託)」
5. 発掘調査・整理報告書作成事業はI-3に示した組織により実施した。

発掘調査は、平成28年6月1日から7月31日まで実施し、6月1日から6月30日までを赤熊浩一・瀧瀬芳之が、7月1日から7月31日まで

を砂生智江・久永雅宏が担当した。なお、事業の契約期間は、平成28年6月1日～8月31日までである。

整理報告書作成事業は、平成29年12月1日から平成30年2月28日まで、砂生が担当し、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第437集として印刷・刊行した。なお、事業の契約期間は、平成29年11月28日から平成30年3月30日までである。

6. 発掘調査における基準点測量は、高瀬測量設計株式会社に委託した。
7. 発掘調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は砂生が行った。
8. 出土品の整理・図版作成は赤熊・瀧瀬・村山卓・水村雄功の協力を得て、砂生が行った。
9. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が、その他を砂生が行った。
10. 本書の編集は砂生が行った。
11. 本書にかかる諸資料は平成30年4月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
12. 発掘調査や本書の作成にあたり、東松山市教育委員会から御教示・御協力を賜った。記して感謝いたします。

凡 例

1. 西浦遺跡におけるX・Yの数値は、世界測地系国土標準平面直角座標第IX系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位はすべて座標北を示す。

C－2グリッド北西杭の座標は、X＝2344.871m、Y＝－38004.048m。北緯36° 01′ 13.4171″、東経139° 24′ 42.0595″である。

2. 調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10×10mの範囲を基本（1グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。

3. グリッド名称は、北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせ、例えばA－1グリッド等と呼称した。

4. 本書における本文・挿図・表に示す遺構の略号は、以下のとおりである。

SD 溝跡 SI 竪穴状遺構 SK 土壌
P ピット・柱穴

5. 本書に掲載した遺構番号は、発掘調査時に付した番号を使用し変更したものは下表に示した。

6. 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。但し、一部例外もあり、それについては図中に縮尺とスケールを示した。

遺構図

調査区全体図 1：180

平面図・断面図 1：60

微細図 1：30

遺物図

陶磁器・瓦質土器 2：3

金属製品 1：3 銭貨 2：3

石製品 1：4

7. 遺物実測図では、須恵器の断面を黒塗りし、油煙の付着範囲を網掛け10%で表現した。

8. 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高（単位m）を表す。

9. 遺構一覧表に表記した、長さ・幅・深さ・短径・長径の単位はmである。

10. 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・大きさはcm・重さはg単位である。

・（ ）内の数値は推定値を示す。

・〔 〕内の数値は残存値を示す。

・胎土は土器中に含まれる鉱物等のうち、特徴的なものを記号で示した。

A：雲母 B：片岩 C：角閃石 D：長石

E：石英 F：軽石 G：砂粒子 H：赤色粒子

I：白色粒子 J：針状物質 K：黒色粒子

L：その他

・残存率は、器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。

・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けて示した。

・色調は『新版標準土色帖』に従った。

・備考には、注記No・生産地・年代等を示した。

・土器・陶磁器の生産地については、胎土によって判断した。

11. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行1/50000地形図（熊谷・川越）を編集・使用した。

遺構名変更一覧表

旧	新
SK 6	SI 1
SK12	SI 2
SD 1・SK26～29・31・32 P 8・49・55・116・131・149・ 155・165・203	欠番

目 次

序
例言
凡例
目次

I 発掘調査の概要	1	IV 遺構と遺物	11
1. 発掘調査に至る経過	1	1. 竪穴状遺構	11
2. 発掘調査報告書作成の経過	2	2. 溝跡	13
3. 発掘調査報告書作成の組織	3	3. 土壌	21
II 遺跡の立地と環境	4	4. ピット	32
1. 地理的環境	4	5. グリッド出土遺物	45
2. 歴史的環境	5	V 調査のまとめ	46
III 遺跡の概要	8	写真図版	
1. 西浦遺跡とその周辺遺跡の概要	8		

挿 図 目 次

第1図 埼玉県の地形図	4	第18図 土壌出土遺物 (3)	28
第2図 周辺の遺跡	6	第19図 土壌出土遺物 (4)	29
第3図 調査区位置図	9	第20図 石出土ピット微細図	32
第4図 西浦遺跡全体図	10	第21図 ピット分布状況 (1)	33
第5図 竪穴状遺構	11	第22図 ピット分布状況 (2)	34
第6図 竪穴状遺構出土遺物	12	第23図 ピット (1)	35
第7図 溝跡 (1)	14	第24図 ピット (2)	36
第8図 溝跡 (2)	15	第25図 ピット (3)	37
第9図 第3号溝跡遺物出土状況	16	第26図 ピット (4)	38
第10図 溝跡出土遺物 (1)	17	第27図 ピット (5)	39
第11図 溝跡出土遺物 (2)	18	第28図 ピット (6)	40
第12図 溝跡出土遺物 (3)	19	第29図 ピット (7)	41
第13図 土壌 (1)	22	第30図 ピット出土遺物	44
第14図 土壌 (2)	23	第31図 グリッド出土遺物	45
第15図 土壌 (3)	24	第32図 西浦遺跡・野本氏館跡の 遺構分布図	47
第16図 土壌出土遺物 (1)	26		
第17図 土壌出土遺物 (2)	27		

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表	7	第6表	土壌一覧表	25
第2表	竪穴状遺構一覧表	11	第7表	土壌出土遺物観察表	30
第3表	竪穴状遺構出土遺物観察表	12	第8表	ピット一覧表	41
第4表	溝跡一覧表	16	第9表	ピット出土遺物観察表	44
第5表	溝跡出土遺物観察表	20	第10表	グリッド出土遺物観察表	45

写 真 図 版 目 次

図版1	1 調査区全景（北から）	4 第16号土壌
図版2	1 調査区南側（南から）	5・6 第30号土壌
	2 調査区北側（北から）	7 グリッド（1）
図版3	1 調査区南側遺構検出状況（南から）	8 グリッド（2）
	2 調査区北側遺構検出状況（南から）	図版11 1～3 ピット
図版4	1 第1号竪穴状遺構	4・5 第3号溝跡
	2 第2号竪穴状遺構	6 第30号土壌
図版5	1 第3号溝跡遺物出土状況（1）	図版12 1 銭貨
	2 第3号溝跡遺物出土状況（2）	2 鉄製品
図版6	1 第3号溝跡	3 棒状鉄製品
	2 石を伴うピットの分布状況	4 溝跡（1）
図版7	1～8 第1～5・8・9・13号土壌	図版13 1 溝跡（2）
図版8	1～5 第15・17～19・22号土壌	2 溝跡・土壌
	6 第24号土壌遺物出土状況	図版14 1 土壌（1）
	7 第24・25号土壌	2 土壌（2）
	8 ピット9遺物出土状況	図版15 1 ピット
図版9	1・2 第1号竪穴状遺構	2 グリッド
	3・4 第2号竪穴状遺構	図版16 1～3 第3号溝跡
	5～7 第3号溝跡	4 第30号土壌
	8 第7号土壌	5 第32号土壌
図版10	1 第3号溝跡	6 第34号土壌
	2 第5号土壌	7 ピット
	3 第11号土壌	8 グリッド

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、新たに平成29年度からの5年間の県政運営の基本となる『埼玉県5か年計画－希望・活躍・うるおいの埼玉－』を策定し、各分野での施策に取り組んでいる。このうち成長の活力をつくる分野では、「埼玉の活力を高める社会基盤をつくる」という基本目標を掲げ、埼玉の活力を高める道路ネットワーク整備を進めている。

こうした中で埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

一般国道407号建設事業における埋蔵文化財の所在及びその取扱いについては、平成2年度に県土木部道路建設課長（当時）から生涯学習部文化財保護課長（当時）あてに照会があった。

これを受けて文化財保護課（当時）は、東松山市教育委員会の協力を得て、平成3年2月26・27日に試掘調査を実施し、当該箇所の埋蔵文化財の有無を確認した。調査の結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡等の遺構が検出された。この結果に基づき、西浦遺跡の埋蔵文化財の取扱いについて、次の通り道路建設課長（当時）あて回答した。

- 1 工事予定地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地（中略）「西浦遺跡（No.34-168）」が存在する。
- 2 この埋蔵文化財包蔵地の取扱いは、できるだけ現状保存することが望ましい。
- 3 工事計画上やむを得ず現状変更する場合は、

文化財保護法の規定による手続きをとり、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること。

その後、事業の計画変更及び埋蔵文化財の現状保存は困難との結論に達したため、記録保存の措置を講ずることとした。なお、発掘調査は用地取得の状況から分割して実施することとなった。

本報告に係る発掘調査にあたっては、実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と東松山県土整備事務所、生涯学習文化財課の三者で、工事日程との調整、調査方法、調査期間等について協議を行った。その結果、平成28年6月1日から7月31日までの期間で実施することとした。

なお、文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知は東松山県土整備事務所長から平成28年5月9日付け東整第719号で提出され、それに対する保護上必要な勧告が埼玉県教育委員会教育長より、平成28年5月16日付け教生文第5-881号によって通知された。

また、同法第92条の規定による発掘調査届が公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から平成28年5月25日付け公財埋文第74号で提出され、これに対する埼玉県教育委員会教育長からの指示は平成28年6月3日付け教生文第2-17号で通知した。

（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課）

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

西浦遺跡の発掘調査は、一般国道407号の整備事業に伴って平成28年6月1日から7月31日まで実施した。調査面積は283㎡である。

5月25日に、発掘調査届提出等の事務手続きを行った。

6月2日に現場事務所を設置し、6日に器材搬入を行った。8日に囲柵設置工事および草刈工事をを行い、並行して重機による表土掘削を開始した。

15日に基準点測量を行った。16日より補助員による遺構確認作業を開始し、遺構確認および遺構概略図の作成を実施した。確認された遺構は、順次掘削・精査に着手した。終了したものから、土層断面図・平面図作成と、写真撮影を行った。7月20日に、高所作業車による調査区全体の写真撮影を実施した。

25日に発掘作業を終了した。26日に発掘器材を搬出し、発見届・保管証を提出した。27日に現場事務所を撤去し、並行して、重機による調査区の均し作業を行った。

28～29日に実績報告書の作成等の事務処理を行い、7月31日にすべての作業を終了した。

(2) 整理・報告書の作成

整理・報告書作成事業は、平成29年12月1日から平成30年2月28日まで実施した。

遺物は、12月より水洗・註記を行い、順次接合復元作業を行った。接合した遺物は実測図を作成

し、計測値や特徴なども記入した。12月下旬より遺物実測図の製図ペンによるトレースを行い、必要に応じて拓本を採った。これらはスキャナを使用してデジタル・データ化し、レイアウト編集して印刷用の挿図版下データを作成した。1月中旬より遺物の写真を撮影し、写真図版の版下データを編集・作成した。

遺構図の整理は、遺物の整理作業と並行して12月より開始した。発掘調査で実施した遺構測量システムのデジタル・データおよび手作業によって作成した平面図・土層断面図等を修正・編集して第二原図を作成した。

12月中旬よりパソコンを使用してデジタルトレースと編集作業を行い、印刷用の遺構図版下データを作成した。遺構写真は、発掘調査で撮影されたものの中から選択し、写真図版用の版下データを作成した。

12月下旬より、作成した遺物・遺構のデータ等をもとに、報告文の執筆を開始した。これと、遺構・遺物の挿図と写真図版などを組み合わせて割付・編集を行った。

2月末に原稿を印刷業者に入稿し、校正を3回を行い、平成30年3月下旬に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第437集『西浦遺跡Ⅲ』を刊行した。

なお、図面や写真などの記録類や遺物は、2月末に整理・分類のうえ、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成28年度（発掘調査）

理 事 長	塩野谷 孝 志	調査部	
常務理事兼総務部長	木 村 博 昭	調 査 部 長	金 子 直 行
総務部		調 査 部 副 部 長	赤 熊 浩 一
総 務 部 副 部 長	黒 坂 禎 二	調査部副部長兼調査第二課長	瀧 瀬 芳 之
総 務 課 長	曾 川 浩 二	主 事	砂 生 智 江
		主 事	久 永 雅 宏

平成29年度（報告書作成）

理 事 長	塩野谷 孝 志	調査部	
常務理事兼総務部長	川 目 晴 久	調 査 部 長	赤 熊 浩 一
総務部		調査部副部長兼整理第二課長	吉 田 稔
総 務 部 副 部 長	黒 坂 禎 二	主幹兼整理第一課長	大 谷 徹
総 務 課 長	曾 川 浩 二	主 事	砂 生 智 江

2. 歴史的環境

旧石器時代

当該時期の遺物の出土例は極めて少なく、比企丘陵内部の神光谷遺跡・大谷遺跡や上川入原遺跡などでナイフ形石器や石刃の出土が認められる。

縄文時代

遺跡の数は現状では少なく、集落の分布は台地上に集中する傾向にある。中期において遺跡の増加が顕著である。東松山台地南縁に位置する岩の上遺跡（5）からは、加曽利E式期の住居跡21軒が検出されており、環状集落となる可能性が指摘されている。

弥生時代

縄文時代と比較して、遺跡の数はかなり増加する。岩鼻遺跡（11）は、後期土器型式としての岩鼻式の標識遺跡である。高坂台地上に位置する代正寺遺跡（39）は大規模な集落遺跡であるほか、方形周溝墓も多数検出されている。東松山台地に位置する天神原遺跡（25）・雉子山遺跡からは住居跡が発見されている。また、当該時期では都幾川低地への集落の進出が注目される。銭塚遺跡（37）からは櫛描文系土器を用いた土器棺墓が、反町遺跡（38）からは弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけての集落や墓域が確認されている。

古墳時代

弥生時代と同様に、多数の遺跡が確認されている。東松山台地に位置する五領遺跡（17）は、前期の集落遺跡として著名であり、出土した土器はいわゆる五領式のもととなった。同台地上には、番清水遺跡（19）・古吉海道遺跡（22）などがある。また、高坂台地上には、前期～中期の集落遺跡である代正寺遺跡・大西遺跡（42）、前期～後期の集落遺跡である下寺前遺跡（32）などがある。これらの遺跡の多くは、奈良・平安時代においても継続して営まれる。集落跡だけでなく、古墳や古墳群も数多く分布し、低地においても一定数が認められる。近年の調査では、西浦遺跡（1）の南

東に位置する野本將軍塚古墳（29）の成果が著名である。本古墳は全長115mを超える大型の前方後円墳である。平成29年に実施された3D測量・レーダー探査の成果によって、築造年代が4世紀後半にさかのぼる可能性が指摘されている。近接する五領遺跡・反町遺跡とは併行する時期であり、両遺跡とのかかわりが今後注目される。

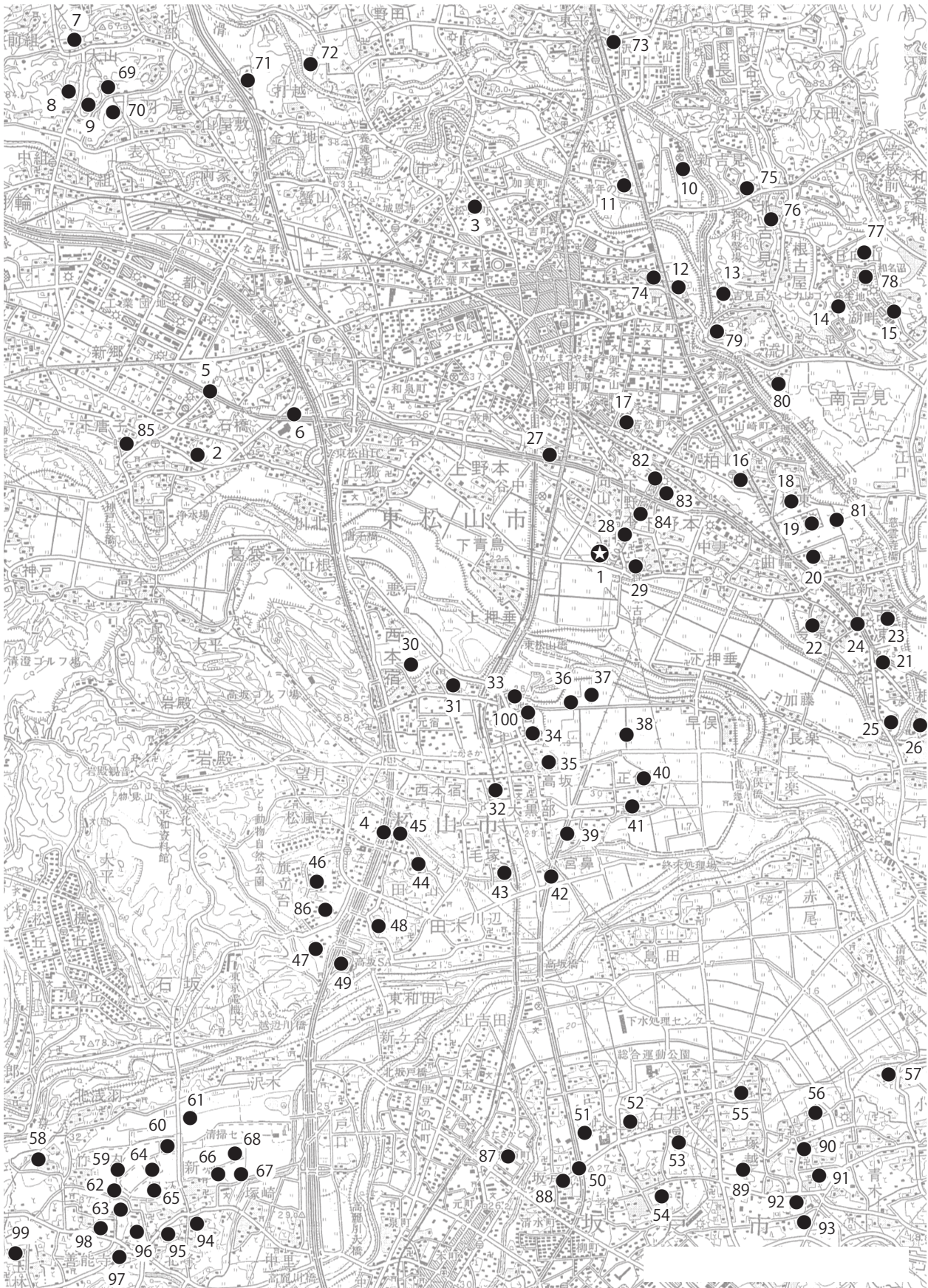
奈良・平安時代

遺跡は、高坂台地・東松山台地の東側など台地の端部に分布する傾向が認められる。古代において上野国と武蔵国府を結ぶ東山道武蔵道は、これまで東松山市内を通過すると考えられてきた。しかし、西吉見条里遺跡（80）において幅約12mの古代道路跡が発見され、従来の想定位置よりも東にそれた位置を通過する可能性が指摘されている。

中世

古代に引き続き鎌倉街道上道が通過する交通の要衝であった。本地域では畠山重忠らをはじめとして、鎌倉幕府成立の一翼を担った武蔵武士に関わる可能性がある遺跡や寺院などが数多く残っている。野本氏館跡（28）は、現在の無量寿寺境内地に位置し、鎌倉御家人の野本氏の館跡とされる。一方で、古くは、武蔵守であった藤原利仁が居を構えたとの伝承があり、無量寿寺はかつて利仁山野本寺と号していたと伝わっている。さらに、隣接する野本將軍塚古墳の墳頂には利仁神社が位置する。墳丘から発見された経筒には、建久七（1196）年銘が刻まれていた。また、高坂台地上に位置する小代氏館跡（41）や、高坂氏館跡（100）は、それぞれ兒玉党の小代氏と、秩父氏の一族である高坂氏の館跡と伝わっている。

14世紀代の築城とされる松山城跡（79）は市野川を臨む吉見丘陵上に位置する。長らく周辺諸氏による激しい争奪戦が繰り返されたが、上田朝直が北条氏へと寝返って以降、天正十八年に落城するまで北条氏の居城として機能した。



第2図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表（第2図）

No	遺跡名	時期
1	西浦遺跡	弥生～古墳 平安 中世
2	塚原遺跡	縄文(早～中)
3	前山遺跡	縄文(中)
4	舞台遺跡	縄文(中) 古墳(後)
5	岩の上遺跡	縄文(中) 平安
6	雉子山遺跡	縄文(前～後) 弥生
7	大谷古墳群	弥生・古墳
8	平谷窯跡	古墳(後)
9	羽尾窯跡	古墳(後)
10	八幡遺跡	弥生
11	岩鼻遺跡	弥生 古墳(前) 平安
12	観音寺遺跡	弥生 古墳(後)
13	吉見百穴横穴墓群	古墳(後)
14	大行山遺跡	弥生
15	久米田遺跡	古墳(中～後)
16	権現塚古墳	古墳(後)
17	五領遺跡	古墳(前・後)
18	天神山古墳	古墳(前)
19	番清水遺跡	古墳(中～後) 奈良 平安
20	おくま山古墳	古墳(後)
21	古凍根岸浦遺跡	古墳(中・後)
22	古吉海道遺跡	古墳(中～後) 奈良 平安
23	下山遺跡	弥生 古墳(後) 奈良 平安
24	下道添遺跡	古墳(中・後)
25	天神原遺跡	弥生
26	根岸稲荷神社古墳	古墳(前)
27	籠田遺跡	弥生・古墳(後)
28	野本氏館跡	弥生 中世
29	野本將軍塚古墳	古墳(前) 中世
30	諏訪山29号墳	古墳(前)
31	諏訪山古墳群	弥生 古墳(後)
32	下寺前遺跡	古墳(前・後) 奈良 平安
33	高坂一番町遺跡	弥生
34	高坂貳番町遺跡	弥生 古墳(後) 中世
35	高坂三番町遺跡	弥生
36	城敷遺跡	弥生 古墳(後)
37	銭塚遺跡	弥生 古墳(後) 奈良 平安
38	反町遺跡	古墳(前～後)
39	代正寺遺跡	弥生 古墳(後) 奈良 平安 中世
40	東形遺跡	弥生
41	小代氏館跡	古墳(前) 中世
42	大西遺跡	弥生 古墳(後) 奈良 平安 中世
43	杉の木遺跡	弥生 古墳(後)
44	桜山古墳群	弥生・古墳(後)
45	桜山窯跡群	古墳(後)
46	根平遺跡	弥生・古墳(後)
47	立野遺跡	古墳(後) 奈良
48	大塚原遺跡	古墳(後) 奈良
49	駒掘遺跡	弥生・古墳(後)
50	相撲場遺跡	弥生

No	遺跡名	時期
51	勇福寺遺跡	弥生
52	新町遺跡	古墳(前)
53	柵遺跡	弥生
54	石井前原遺跡	弥生
55	勝呂遺跡	弥生 奈良 平安
56	塚越渡戸遺跡	弥生
57	附島遺跡	弥生 奈良
58	長岡遺跡	古墳(前・後)
59	棚田遺跡	古墳(後)
60	広面遺跡	古墳(前)
61	中耕遺跡	古墳(前)
62	稲荷前遺跡	古墳(前・後) 奈良 平安
63	塚の越遺跡	古墳(後) 奈良 平安
64	桑原遺跡	古墳(後)
65	田島遺跡	古墳(後)
66	金井A遺跡	古墳(後) 奈良 平安
67	金井B遺跡	古墳(後) 奈良 平安
68	足洗遺跡	古墳(後) 奈良 平安
69	寺谷庵寺遺跡	弥生 古墳
70	五輪沼窯跡	古墳(後)
71	打越遺跡	奈良 平安
72	城原北遺跡	奈良 平安
73	沢口遺跡	奈良 平安
74	松本町遺跡	奈良 平安
75	八耕地遺跡	奈良 平安
76	二十二耕地遺跡	奈良 平安
77	日向山遺跡	奈良 平安
78	かぶと塚古墳	古墳(後)
79	松山城跡	中世
80	西吉見条里遺跡	奈良 平安
81	笹塚遺跡	古墳(後)
82	野本中原遺跡	奈良 平安
83	山王裏遺跡	奈良 平安
84	上川入遺跡	奈良 平安
85	冑塚古墳	古墳(後)
86	緑山遺跡	奈良
87	芦山遺跡	奈良 平安
88	金内山遺跡	奈良 平安
89	御門遺跡	奈良 平安
90	明泉遺跡	奈良 平安
91	青木堀ノ内遺跡	奈良 平安
92	住吉中学校遺跡	奈良 平安
93	清進場遺跡	奈良 平安
94	西峰西浦遺跡	奈良 平安
95	中原遺跡	奈良
96	三福時遺跡	奈良 平安
97	大河原遺跡(古墳群)	古墳 奈良 平安
98	稲荷森遺跡	奈良 平安
99	明神台遺跡	奈良 平安
100	高坂氏館跡	中世

Ⅲ 遺跡の概要

1. 西浦遺跡とその周辺遺跡の概要

第3図に示す通り、西浦遺跡周辺には野本氏館跡・上川入遺跡・山王裏遺跡が、互いに接しながら分布している。これらの遺跡を貫く形で北東から南西に延びる一般国道407号の建設・整備に伴い、複数回の調査が間隔をあけて実施されてきた。

まず、西浦遺跡は、これまでに6回の調査が実施されている。遺跡の南縁は東松山台地の縁辺に接し、都幾川低地を臨む低台地上に位置する。調査地点の標高は、約22mである。第1～5次調査区は、野本氏館跡を挟んで、南北に大きく二分されている。調査区は、南に向かって緩やかに傾斜している。検出された遺構は、弥生～平安時代の住居跡・方形周溝墓・溝跡・井戸跡・土壇などである。調査区南側からは埋没谷が検出された。埋没谷の範囲からは、円面硯10点のほか、「比」の墨書土器、「企」の朱墨書土器が出土した。加えて、埋没谷に位置する住居跡から「厨」の墨書土器が出土している。溝跡、井戸跡、土壇墓の多くは中世と考えられる。土壇の一部は、墓跡の可能性もある。

今回実施された第6次調査の調査区は、第3次調査区西側に一部残っていた未調査部分であり、三角形を呈する。標高は南側がやや低くなっている。調査区の北半部ではローム面が検出されたが、南半部には暗褐色の粘質土面が形成されていた。

調査によって、竪穴状遺構2基・溝跡4条・土壇29基・ピット211基が検出された。出土遺物はわずかな須恵器片を除いて、陶磁器・瓦質土器・かわらけなど、中世の所産である。

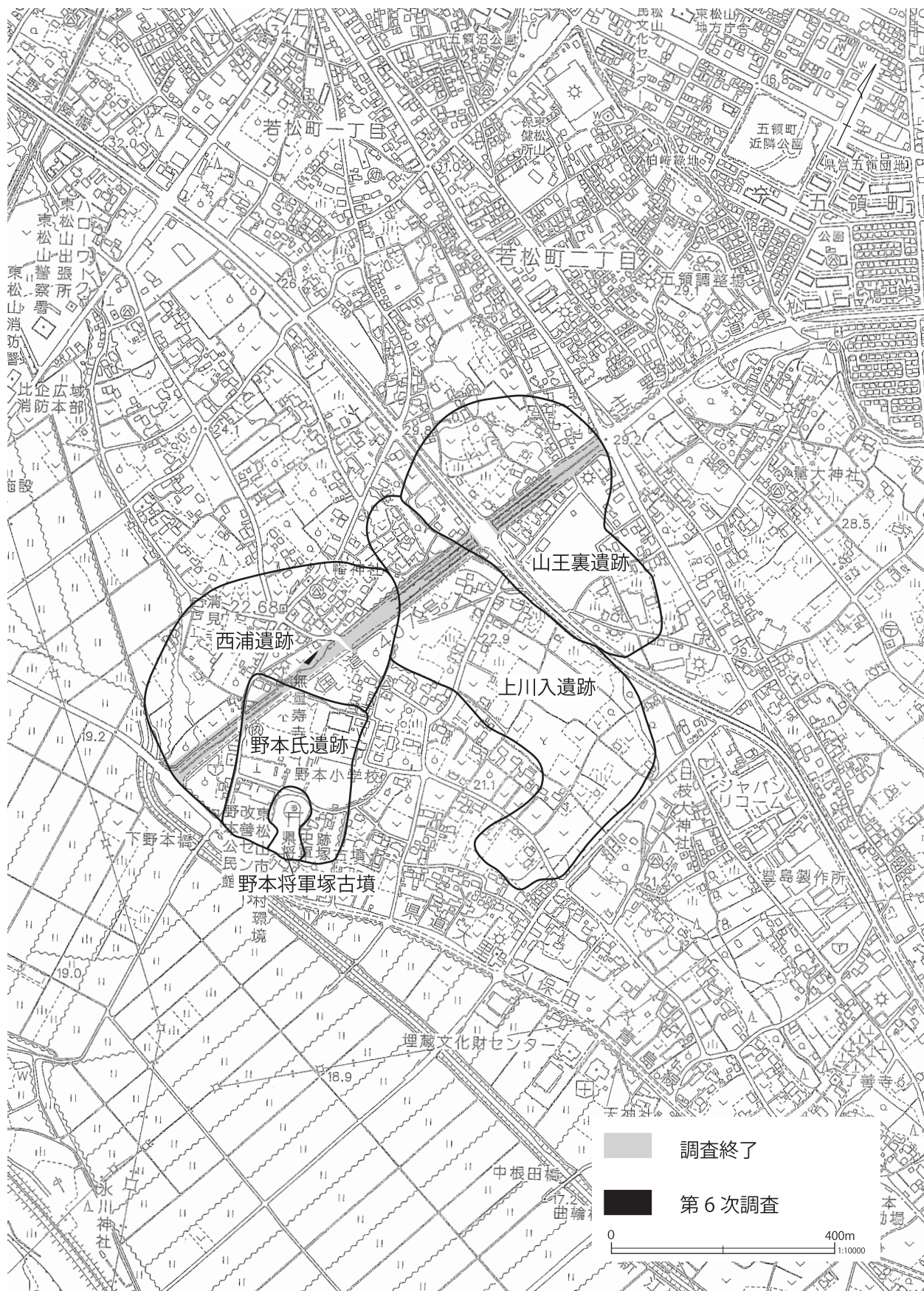
また、遺構の分布状況には偏りが認められ、北半部には、主に竪穴状遺構・土壇・ピットが、南半部には、主に溝跡と少数のピットが分布する。第13号土壇と第1号竪穴状遺構の間では、ピット

が南北方向にやや集中して分布する傾向にあり、建物跡や柵列をなす可能性が想定される。一部のピットからは根石の可能性のある石が検出された。

野本氏館跡は、これまでに2回の調査が実施されている。遺跡範囲内の南東部には、野本將軍塚古墳があり、頂部の利仁神社からは建久七年銘を有する経筒が出土している。館があったとされる無量寿寺の周囲には土塁や堀が巡っていたと伝わるが、現在は本堂の西側の一部に土塁が遺存するのみである。調査区の標高は約22mである。調査によって、弥生時代の住居跡のほか、竪穴状遺構・溝跡・堀跡・土壇などが検出された。溝跡の多くは同一方向に走っており、相互に関連が認められる。また、出土遺物から中世に属するものと考えられる。一方で、第1次調査では、櫛描文土器を主体とする弥生土器が集中して出土した溝跡が1条認められる。

上川入遺跡は、これまでに1回の調査が実施された。遺跡は、台地の肩部から低台地へと降りる斜面部、低台地上に立地し、南に向かって傾斜している。標高は約21.5～30.5mである。調査によって、旧石器がまばらに出土したほか、奈良～平安時代の住居跡、中世の溝跡、土壇などが検出された。調査区北側で検出された溝跡は、山王裏遺跡内で発見された溝跡に接続するもので、基壇を囲む地割溝と推察される。

山王裏遺跡は、これまでに、7回の調査が実施された。遺跡は台地の平坦面上に立地し、標高は約29.6mである。調査によって、古墳時代後期の円墳、奈良時代の基壇跡、奈良～平安時代の住居跡・溝跡・土壇・ローム採掘坑などが検出された。基壇は掘り込み地業によるものであり、東側には地割溝が確認されている。これは、上川入遺跡で検出された溝跡に接続するものと推察される。





第4図 西浦遺跡全体図

IV 遺構と遺物

1. 竪穴状遺構

調査区からは、2基の竪穴状遺構が検出された。
A・B-2グリッドに位置する。周辺には、ピットが集中して分布する。

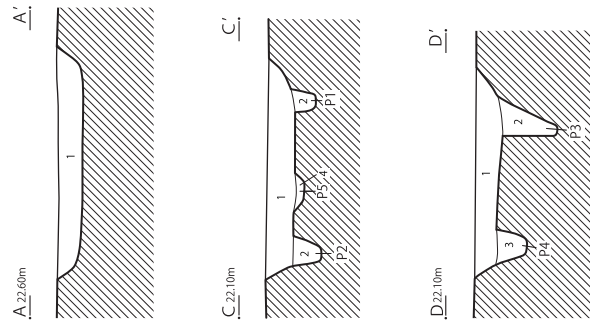
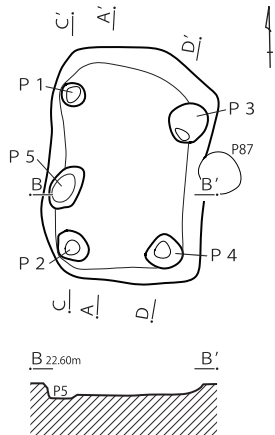
平面形態は、いずれも隅丸長方形であり、掘り込みは浅い。軸方位は共にほぼ北を示し、時期の近い遺構である可能性が高い。

出土遺物より中世に比定されるものと考えられる。

第1号竪穴状遺構（第5図）

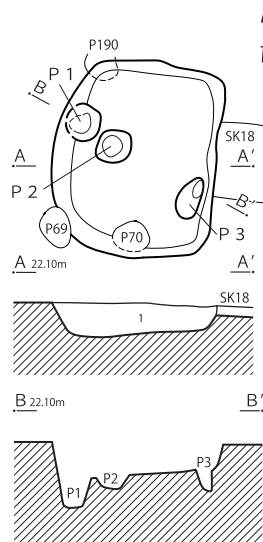
A・B-2グリッドにあり、第2号竪穴状遺構の南西約1.4mに位置する。P87と重複し、壊されている。

S I 1



- S I 1
1 黒褐色土 ローム粒均等を含む
焼土粒まだらに含む 炭化物粒微量含む
2 黒褐色土 ローム粒少量含む
3 黒褐色土 ローム粒の混入量が2層より多い
4 暗褐色土 ローム粒均等を含む
焼土粒微量含む

S I 2



- S I 2
1 暗褐色土 ローム粒均等を含む
焼土粒・炭化粒まだらに少量含む



第5図 竪穴状遺構

第2表 竪穴状遺構一覧表（第5図）

遺構名	グリッド	平面形	長軸方位	長径	短径	深さ	重複	遺物
S I 1	B 2	隅丸長方形	N-3°-W	1.89	1.32	0.22	P87より古	第6図1~2・6
S I 2	A・B 2	隅丸長方形	N-3°-E	1.59	1.30	0.28	SK18.P70.190より新 P69より古	第6図3~5

軸方位は、N－3°－Wである。平面形態は、隅丸長方形を呈し、規模は、長軸1.89m、短軸1.32m、深さ0.22mである。

床面はほぼ平坦であり、硬化面は認められなかった。床面からは5基のピットが検出された。四隅に位置するP1～4は柱穴と考えられるが、いずれも柱痕は確認できなかった。P4の北側に位置するP5は、P1～4と比較して浅く、本遺構に伴うものかは不明である。

出土遺物は須恵器・かわらけ・金属製品などであり、P3の覆土中からもかわらけが出土した。いずれも細片である。

第6図1は、須恵器壺の口縁部である。他の出土遺物の時期から、本遺構に伴うものとするには疑問が残る。

2は、ロクロかわらけである。底部に回転糸切の痕跡が認められる。

第2号竪穴状遺構（第5図）

B－2グリッドにあり、第1号竪穴状遺構の北東約1.4mに位置する。第18号土壌・P69・70・190と重複する。P69によって壊され、第18号土壌・P70・190を壊している。床面から柱穴は検出さ

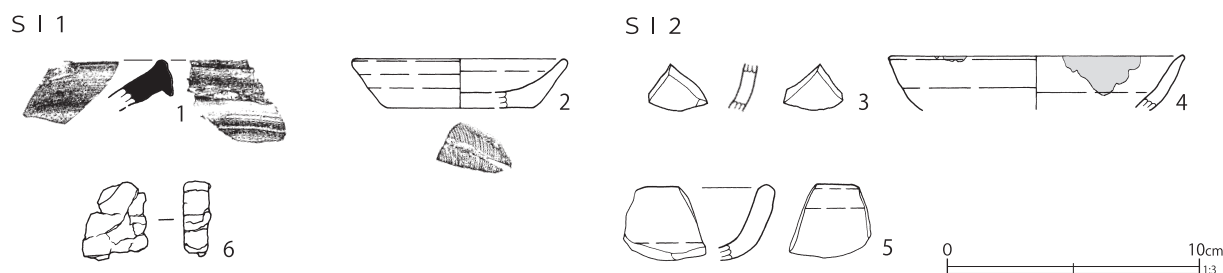
れなかったが、平面形態や軸方向が第1号竪穴状遺構と極めて近いことから同様の遺構と考えた。

軸方位は、N－3°－Eである。平面形態は、隅丸長方形を呈する。規模は、長軸1.59m、短軸1.30m、深さは0.28mである。床面はほぼ平坦であり、硬化面は認められなかった。床面からP1～3が検出されたが、ピットの配置関係や平面・断面形態から、本遺構に伴う可能性は低いと考えられる。

出土遺物は、磁器・かわらけなどであり、いずれも細片である。

第6図3は青白磁であり、景德鎮窯系の可能性がある。細片のため器種を特定できないが、内面が無施釉であることから瓶類と推察される。外面の釉葉が発泡しており、被熱していると考えられる。13世紀の所産である。

4・5は、かわらけの破片である。4は、ロクロかわらけである。内外面に油煙が付着していることから、灯明皿として使用されていたものと推察される。13世紀代の所産である。5は、手づくねかわらけであり、風化が著しい。13世紀の所産である。



第6図 竪穴状遺構出土遺物

第3表 竪穴状遺構出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	壺	—	[1.40]	—	EHIK	5	良好	橙色	SK6	9-2
2	かわらけ	小皿	(8.2)	1.90	(5.6)	AIK	10	良好	灰白色	SK6 ロクロ成形 底部回転糸切り	9-1
3	磁器(青白磁)	瓶類か	—	[1.65]	—	K	5	良好	にぶい黄橙色	SKI2 中国景德鎮窯系か 外面釉施釉 被熱か	9-3
4	かわらけ	小皿	(11.4)	[2.10]	—	GHIK	5	普通	橙色	SKI2 ロクロ成形 口縁部油煙付着	9-4
5	かわらけ	小皿	—	[2.90]	—	AHIK	5	普通	橙色	SKI2 非ロクロ成形	
番号	種別	器種	法量							備考	図版
6	金属製品	不明	長さ2.0cm 幅1.7cm 厚さ0.6cm							SI1 鋳造品か	12-2

2. 溝跡

溝跡は4条検出され、主に調査区の南半部に分布する。第1号溝跡は欠番である。第2・4・5号溝跡は、南西方向に走行する。

第3号溝跡は、Dグリッドラインの調査区西側壁付近で屈曲し、L字状を呈する。第2次調査区において検出された第28号溝跡と東側で接続する。また、西側は、調査区域外において延長し、第2・4・5号溝跡と同様の南西方向に走行する溝跡となる可能性が高い。このことから検出された溝跡は、互いに関連の強いものと考えられる。遺構の性格は、地割溝や区画溝と考えられる。出土遺物では、舶載磁器類および国産陶器類はすべて掲載している。時期は、出土遺物より、中世に位置づけられる。

第2号溝跡（第7図）

B・C-2グリッドに位置する。西側にある第4号溝跡とほぼ並走する。南側で第3号溝跡と合流する。

第3号溝跡・P140に壊され、第20号土壇・P159・160・169・208を壊している。

走行方位は、N-5°-Wである。平面形態は直線的に延びる。断面形態は、逆台形を呈する。検出された長さは、13.65mであり、幅は0.57～0.98m、深さは0.28～0.43mである。

出土遺物は、舶載磁器・瓦質土器・かわらけなどである。

第10図1～3に出土遺物を図示した。1は、青磁坏である。龍泉窯系と考えられる。内外面に青磁釉を施す。14世紀の所産である。2は瓦質の内耳鍋と考えられる。内面には指頭痕が認められる。14世紀～15世紀初頭の所産である。3は瓦質土器の破片である。器種は火鉢である。外面に菊花文スタンプを配する。15世紀の所産と考えられる。

第3号溝跡（第8・9図）

C・D-1・2グリッドに位置する。東側で第2号溝跡が合流する。第2号溝跡との重複箇所

確認した土層断面によると、ピット状の攪乱によってやや不明瞭ながら、第2号溝跡の覆土3層を掘り込んでおり、第2号溝跡がほぼ埋没した後、第3号溝跡が掘削されたものと推察される。

P142・153～156・161・162～164・170・171・173・212に壊され、第2号溝跡を壊している。走行方位は、N-10°-E、N-89°-Eである。平面形態は、L字状である。断面形態は、逆台形を呈する。

検出された長さは10.92mであり、幅は1.50～2.05m、深さは0.39～0.68mである。

屈曲部外側には、東西方向に礫の広がり認められた。礫の範囲は、長辺約2.40m、短辺約0.62m、深さは0.16～0.32mであり、第3号溝跡の最終埋没土上にも広がる。礫範囲の西半部には土壇状の掘り込みを伴うが、掘り込みは溝跡より古いものである。掘り込みと礫との関連が不明であったため、第34号土壇とした。

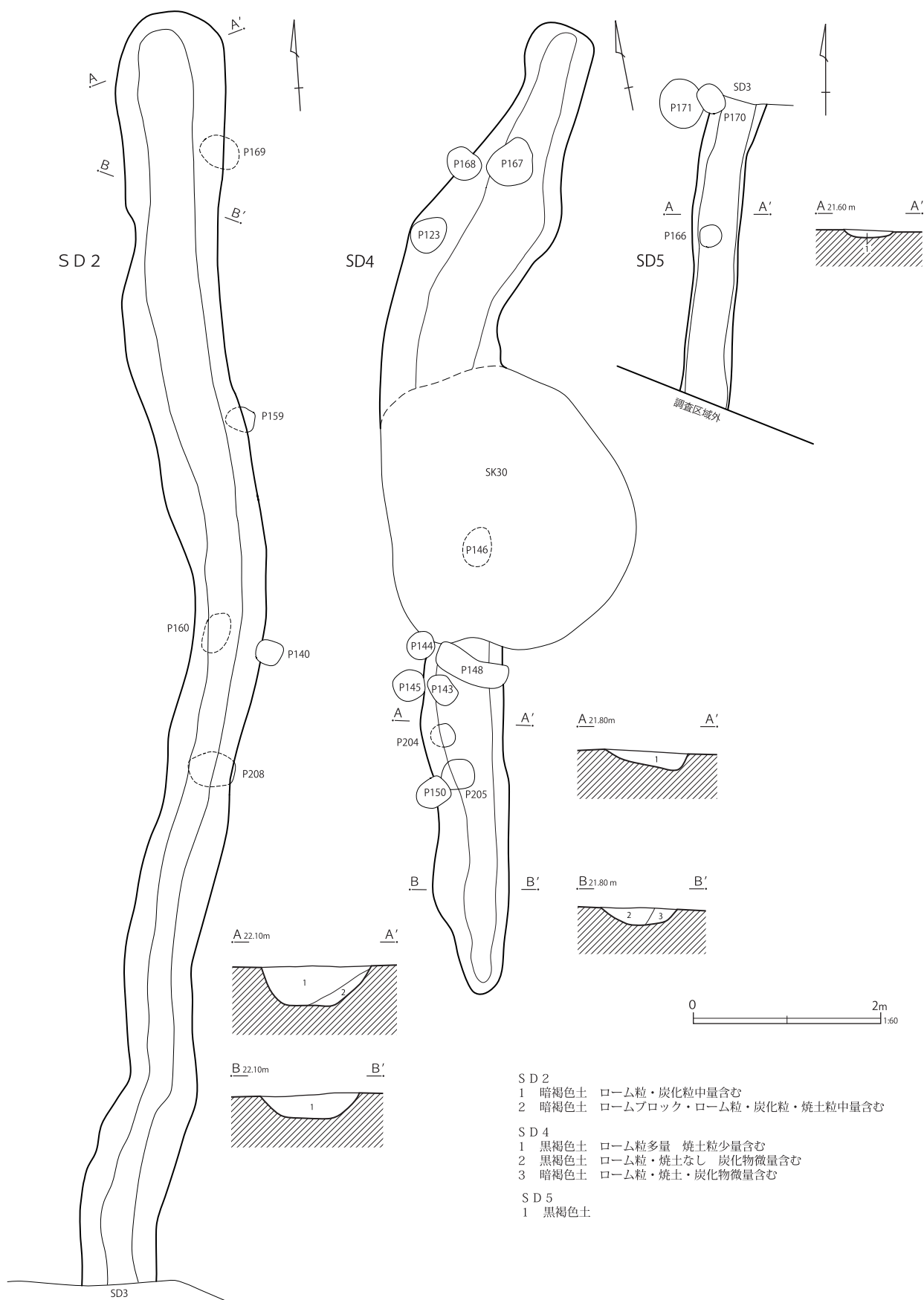
礫内からは、瓦質土器・砥石・鉄滓などの遺物が検出された。これらの遺物と、第3号溝跡覆土中より出土した遺物とに時期の大きな隔たりはないようである。

第10・11図4～35、第12図38～42に出土遺物を示した。4・5は須恵器で、いずれも産地は南比企窯跡群である。4は坏の底部である。底部の径が小さく、厚みがある。9世紀後半の所産である。5は壺の肩部である。礫内から出土した。

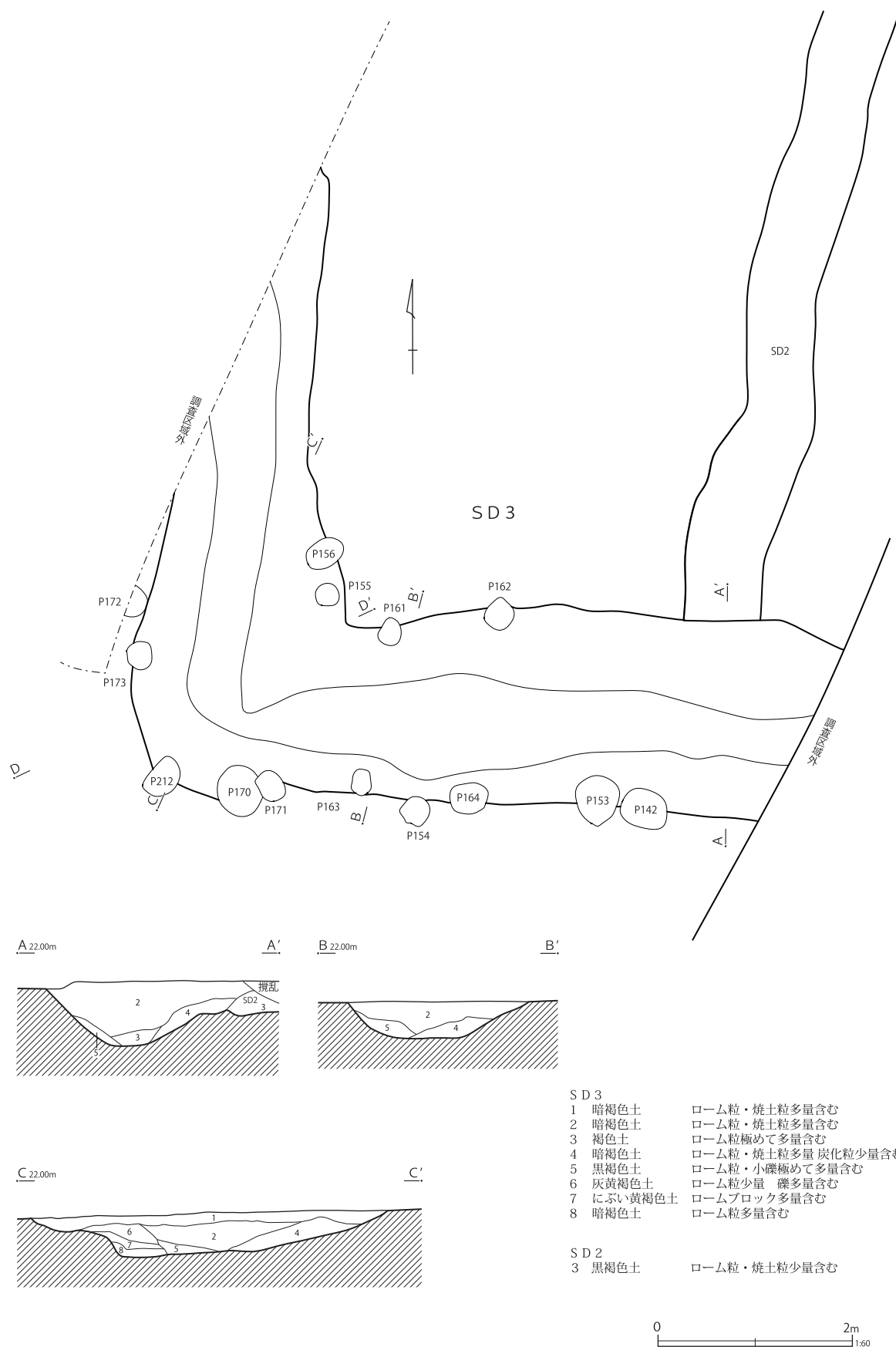
6・7は白磁の破片である。6は景德鎮窯系の口剥げ皿であり、14世紀の所産である。7は碗であり中国南部系と考えられる。高台の接地面にえぐりを持つ。14～15世紀の所産である。

8～15は陶器である。8は、常滑の甕である。唯一の口縁部の破片で、14世紀前半の所産である。9～15も常滑の製品であるが、胴部の破片であり、詳細な時期を比定することはできなかった。

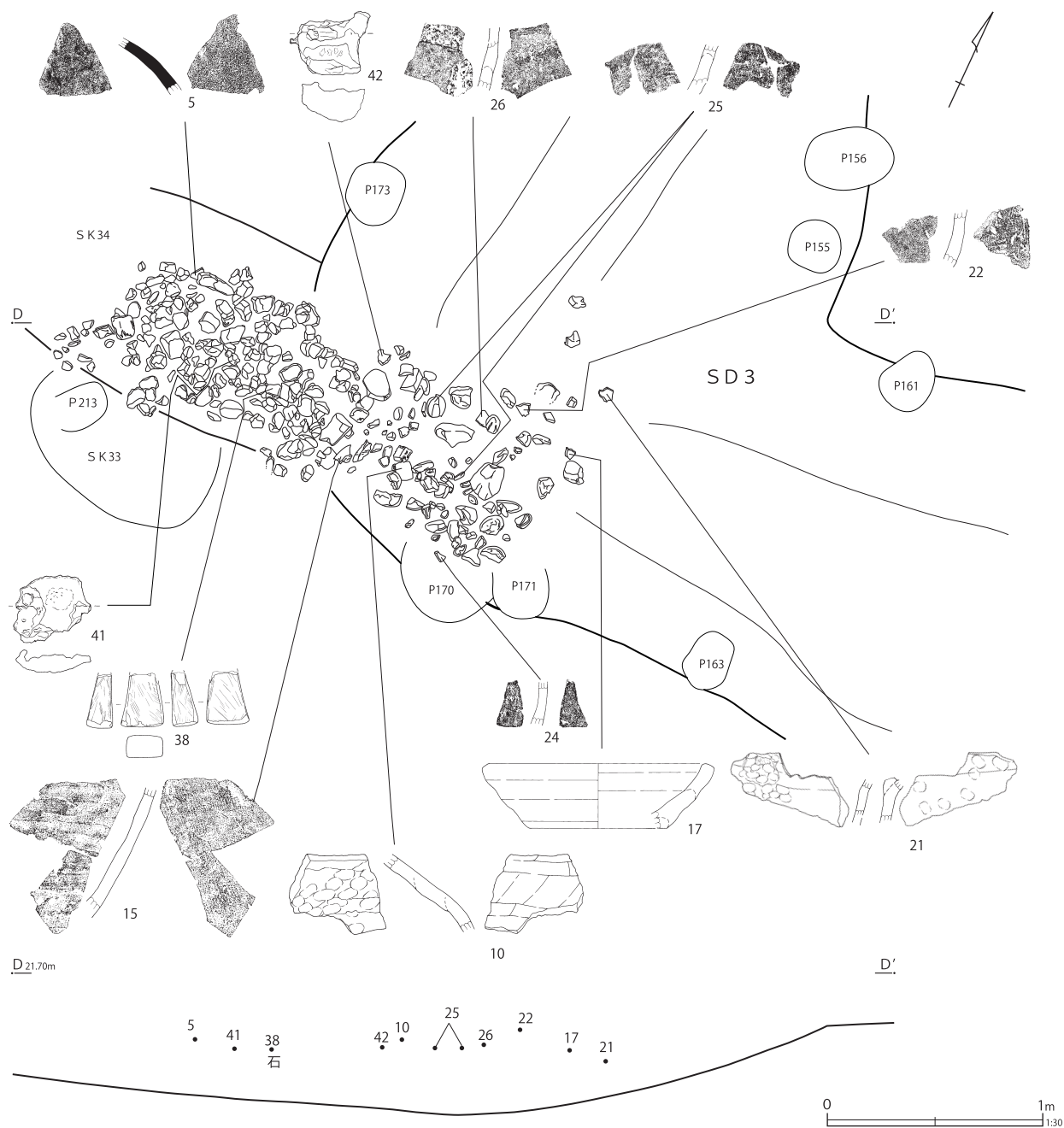
17～28、34・35は瓦質土器である。このうち



第7図 溝跡(1)



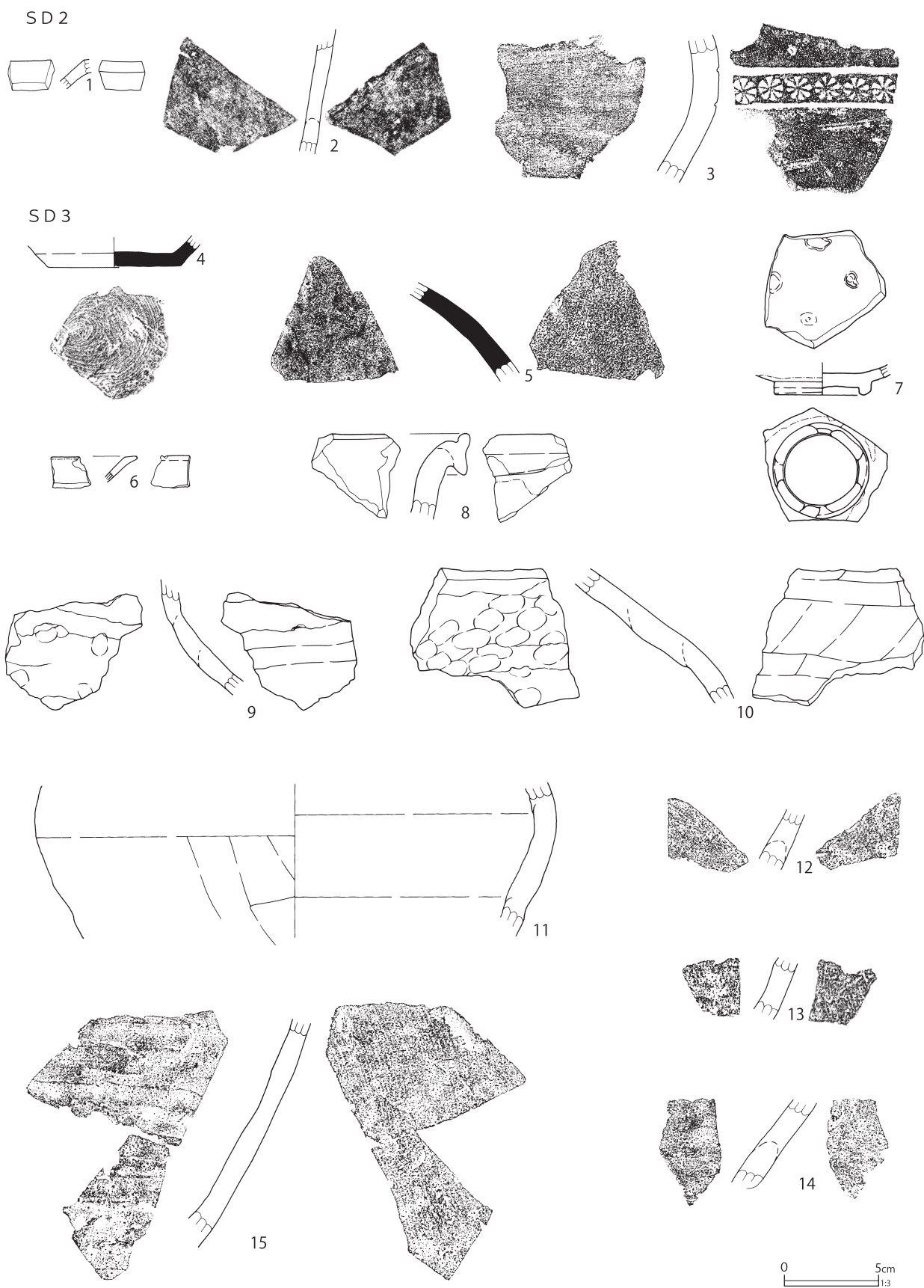
第8図 遺構(2)



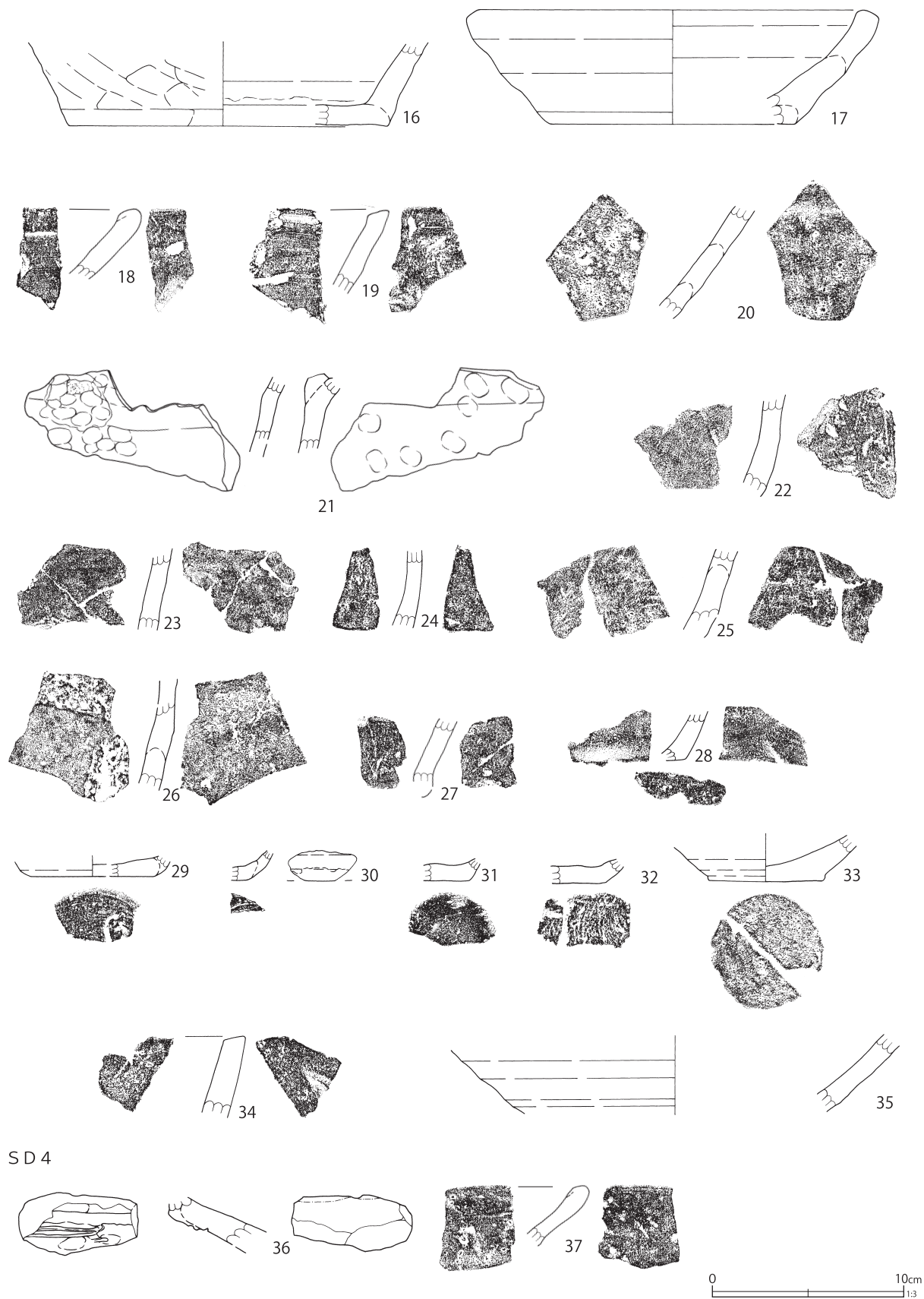
第9図 第3号溝跡遺物出土状況

第4表 溝跡一覧表(第7・8図)

遺構名	グリッド	長さ	幅	深さ	断面形	方位	走行方向	重複関係・備考	遺物
SD 2	B・C 2	13.65	0.57~0.98	0.28~0.43	逆台形	N-5°-W	北→南	SK20・P159・160・169・208より新 SD3・P140より古	第10図1~3
SD 3	C・D 1・2	10.92	1.50~2.05	0.39~0.68	逆台形	N-10°-E N-89°-E	北→南→東	SD2より新 P142・153~156・161~164・170 ・171・173・212より古	第10図4~15 第11図16~35 第12図38~42
SD 4	C 1・2	10.45	0.44~0.89	0.03~0.17	皿形	N-10°-E	北→南	P204・205より新 SK30・P123・P143~145・148 ・150・167・168より古	第11図36・37
SD 5	D 1	3.23	0.47~0.56	0.04~0.09	皿形	N-6°-E	南→北	SD3・P166・170より古	—

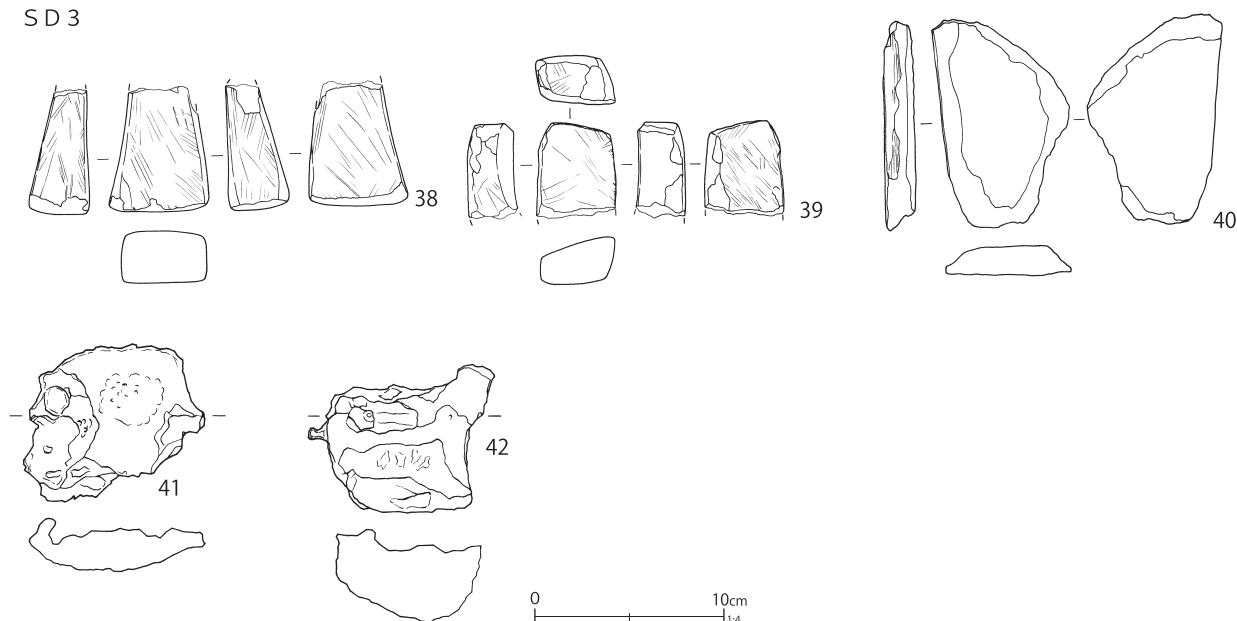


第10図 溝跡出土遺物 (1)



第11図 溝跡出土遺物 (2)

SD 3



第12図 溝跡出土遺物（3）

17・21・22・24・25・26は、礫内から出土した。17は、鉢である。小石を多く含む粗い胎土である。21は、内耳鍋である。内面に耳の一部が遺存する。内外面ともに指頭痕が認められる。瓦質土器はいずれも小破片のため詳細な時期を限定することはできなかった。

29～33はかわらけである。29は手づくねかわらけ、30～33はロクロかわらけである。胎土は含有物が少なく精緻である。33は底部に静止糸切の痕跡が認められる。小破片のため詳細な時期は不明であるが、いずれも13世紀代の所産と考えられる。

第12図38～40は砥石である。38は礫内から出土した。38・39は流紋岩製で、欠損面を除くすべての面に使用の痕跡が認められる。特に38の正面はかなり摩耗しており、使い込んだ様子がうかがわれる。40は片岩製で、片方の側面の一部に、擦痕が認められる。

41・42は鉄滓であり、いずれも礫内から出土した。41は、楕円形の碗形滓で、ほぼ完形である。上面は、中央部分が凹み、周縁に高まりを持つ。

表面は平坦で、鉄錆が全体を被っている。下面は、船底形でわずかに丸みをもっている。鉄錆の付着も見られる。重量はあるがやや扁平で、厚みはあまりない。下面端部に滓の突起が見られる42は、楕円の碗形滓で、三方に欠損が見られる。上面は、中央部分が凹み、周縁に高まりを持つ。表面は平坦で、鉄錆が全体を被っている。下面は、船底形で丸味をもっている。土砂が付着している。重量があり、破面を見ると緻密で、滓が重層的に堆積している。

第4号溝跡（第7図）

C-1・2グリッドに位置する。東側にある第2号溝跡とほぼ並走する。

第30号土壙・P123・143～145・148・150・167・168と重複し、壊されている。P204・205と重複し、壊している。

走行方位は、N-10°-Eである。平面形態は直線に延びる。断面形態は、皿形を呈する。

検出された長さは、10.45mであり、幅は0.44～0.89m、深さは0.03～0.17mである。

第5表 溝跡出土遺物観察表（第10～12図）

	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器(青磁)	坏	—	[1.50]	—	K	5	良好		SD2一括 中国龍泉窯系	
2	瓦質土器	内耳鍋	—	[6.10]	—	EGI	5	良好	黄灰色	SD2No1	12-4
3	土師質土器	火鉢	—	[7.90]	—	CDEG	5	普通	にぶい 橙色	SD2包含層 内面煤付着か	12-4
4	須恵器	坏	—	—	(7.0)	EI	40	良好	暗灰黄	SD2No3 底部回転糸切り 南比企地域産 9C後半	9-6
5	須恵器	壺	—	[5.20]	—	IK	5	普通	暗灰色	SD3No16 南比企地域産	12-4
6	磁器(白磁)	皿	—	[1.20]	—	K	5	良好	灰白色	SD3トレンチ 中国 口剥げ皿 14C～	10-1
7	磁器(白磁)	皿	—	[1.40]	4.5	K	80	良好	浅黄橙色	SD3トレンチ 中国南部系 14～15C	9-5
8	陶器	甕	—	[4.90]	—	IK	5	良好	灰黄褐色	SD3 常滑 6b形式14C前半	12-4
9	陶器	甕	—	[4.80]	—	I	5	良好	黒色	SD3トレンチ 常滑	12-4
10	陶器	甕	—	[12.0]	—	IK	5	良好	暗褐色	SD3No6 常滑 外面肩部自然降灰	12-4
11	陶器	甕	—	[8.40]	—	IK	20	良好	灰褐色	SD3No18 常滑	12-4
12	陶器	甕	—	[2.80]	—	AEIK	5	良好	灰黄褐色	SD3トレンチ 常滑	12-4
13	陶器	甕	—	[3.30]	—	AEIK	5	良好	灰黄褐色	SD3 常滑	12-4
14	陶器	甕	—	[4.40]	—	AHIK	5	良好	灰黄色	SD3トレンチ 常滑 内面下部に降灰釉付着	12-4
15	陶器	甕	—	[16.80]	—	EI	5	良好	灰黄褐色	SD3No13 SK23	13-2
16	陶器	甕	—	[4.30]	(16.0)	EIKL	20	良好	灰色	SD3No4 常滑	9-7
17	瓦質土器	鉢	(19.3)	5.90	(12.6)	CEGL	20	良好	黒褐色	SD3No12 SK34 SD3	12-4
18	瓦質土器	鉢	—	[4.30]	—	EIK	5	良好	灰白色	SD3	12-4
19	瓦質土器	鍋か	—	[4.70]	—	EHK	5	良好	褐灰色	SD3トレンチ	12-4
20	瓦質土器	鉢	—	[5.70]	—	EGH	5	良好	にぶい 黄橙色	SD3一括	12-4
21	瓦質土器	内耳鍋	—	[4.10]	—	I	5	良好	灰黄色	SD3No11 SD4一括	12-4
22	瓦質土器	鍋か	—	[5.20]	—	EHIK	5	良好	褐灰色	SD3No8	12-4
23	瓦質土器	鍋か	—	[4.20]	—	DI	5	良好	褐灰色	SD3一括 SD3トレンチ	12-4
24	瓦質土器	鉢か	—	[4.00]	—	EHIK	5	良好	褐灰色	SD3No7	12-4
25	瓦質土器	鍋	—	[4.10]	—	DEGK	5	良好	明赤褐色	SD3No5 SD3No9	13-1
26	瓦質土器	鍋	—	[5.80]	—	EI	5	良好	にぶい 黄橙色	SD3No10	13-1
27	瓦質土器	鍋	—	[3.60]	—	CEH	5	良好	にぶい 褐色	SD3	13-1
28	瓦質土器	鍋	—	[2.50]	—	GIK	5	良好	褐灰色	SD3トレンチ	13-1
29	かわらけ	小皿	—	[1.00]	(6.4)	GIK	10	不良	にぶい 橙色	SD3	13-1
30	かわらけ	小皿	—	[1.50]	—	HIK	5	不良	にぶい 橙色	SD3トレンチ 非ロクロ成形 風化激しい	13-1
31	かわらけ	小皿	—	[1.20]	—	EJKL	5	普通	橙色	SD3 ロクロ成形	13-1
32	かわらけ	小皿	—	[1.20]	—	EGHK	5	不良	にぶい 褐色	SD3トレンチ ロクロ成形 底部回転糸切り	13-1
33	かわらけ	小皿	—	[2.40]	6.0	GHJK	70	不良	橙色	SD3 ロクロ成形 底部静止糸切り	13-1
34	瓦質土器	鉢か	—	[4.25]	—	GHK	5	普通	灰黄色	SD3トレンチ 被熱か	13-1
35	瓦質土器	鉢	—	[4.00]	—	EHK	20	普通	灰白色	SD3No1 SD3No2 内面使用により摩耗する	13-1
36	陶器	甕	—	[2.40]	—	IK	5	良好	暗灰黄色	SD4一括 常滑	13-1
37	瓦質土器	鍋	—	[3.80]	—	EI	5	良好	灰黄色	SD4一括	13-1
番号	種別	器種	法量						石種	備考	図版
38	石製品	砥石	長さ(6.6)cm	幅5.3cm	厚さ3.2cm	重さ138.6g	流紋岩		SD3No15		16-1
39	石製品	砥石	長さ[5.0]cm	幅4.2cm	厚さ2.6cm	重さ75.3g	流紋岩		SD3		16-2
40	石製品	砥石	長さ(11.0)cm	幅(7.1)cm	厚さ1.65cm	重さ181.8g	緑泥片岩		SD3一括		16-3
番号	種別	器種	法量						備考		図版
41	鉄滓	碗形滓	長さ5.8cm	幅6.8cm	厚さ1.7cm	重さ128.6 g			SD3No17		11-4
42	鉄滓	碗形滓	長さ5.8cm	幅7.1cm	厚さ3.7cm	重さ153.7 g			SD3No14		11-5

出土遺物はごく少量である。第11図36は常滑の陶器である。頸部と肩部の接続部に近い位置の破片であり、内面には棒状工具による強いナデが施されている。37は瓦質鍋である。

第5号溝跡（第7図）

D－1グリッドに位置する。北側は第3号溝跡

と合流する。第3号溝跡・P166・170に壊されている。走行方位は、N－6°－Eである。平面形態は直線である。検出された長さは、3.23mであり、幅は0.47～0.56mである。深さ0.04～0.09mと浅い。上部が削平されていると考えられ、他の遺構よりも新しい時期の遺構の可能性がある。

3. 土壌

土壌は29基検出された。このうち、第16・24号土壌は墓跡と考えられる。出土遺物のうち舶載磁器および国産陶器はすべて掲載した。

第1号土壌（第13図）

X-3グリッドに位置する。平面形態は、円形である。

第2号土壌（第13図）

X-3グリッドに位置する。東側が調査区域外に位置する。P175・176・216に壊されている。平面形態は、円形と考えられる。

第3号土壌（第13図）

X-3グリッドに位置する。P9に壊され、P65を壊している。平面形態は、円形である。

第4号土壌（第13図）

X-3グリッドに位置する。西側の一部が調査区域外に位置する。P177・217を壊している。平面形態は、不整形である。長軸方位は、N-68°-Wである。

第5号土壌（第13図）

A-3グリッドに位置する。P10~12・17・18に壊されている。平面形態は、楕円形である。長軸方位は、N-27°-Wである。

第7号土壌（第13図）

B-2グリッドに位置する。東側の一部が調査区域外に位置する。P115を壊している。平面形態は、長方形である。長軸方位は、N-20°-Eである。

第8号土壌（第13図）

B-2グリッドに位置する。P96・97・103に壊されている。平面形態は、隅丸長方形である。長軸方位は、N-18°-Eである。第19図56の釘が出土した。

第9号土壌（第13図）

B-2グリッドに位置する。P193・194を壊している。平面形態は、長方形である。長軸方位は、N-64°-Wである。

第10号土壌（第13図）

B-2グリッドに位置する。P104に壊され、P195を壊している。平面形態は、楕円形である。長軸方位は、N-69°-Wである。

第11号土壌（第14図）

B-2グリッドに位置する。P102・113に壊され、P197~200を壊している。平面形態は、円形である。

第17図24はロクロかわらけである。内面の口唇部を除く部分に、油煙か煤のようなものが付着している。

第13号土壌（第14図）

A-2・3グリッドに位置する。第14・17号土壌・P179・180を壊している。平面形態は、長方形である。長軸方位は、N-80°-Wである。

第14号土壌（第14図）

A-2・3グリッドに位置する。第13・15・17号土壌、P179~184に壊されている。平面形態は、楕円形である。長軸方位は、N-72°-Wである。

第15号土壌（第14図）

A-2・3グリッドに位置する。第14号土壌・P42・98に壊され、P185~189を壊している。平面形態は、長方形である。長軸方位は、N-70°-Wである。

第16号土壌（第14図）

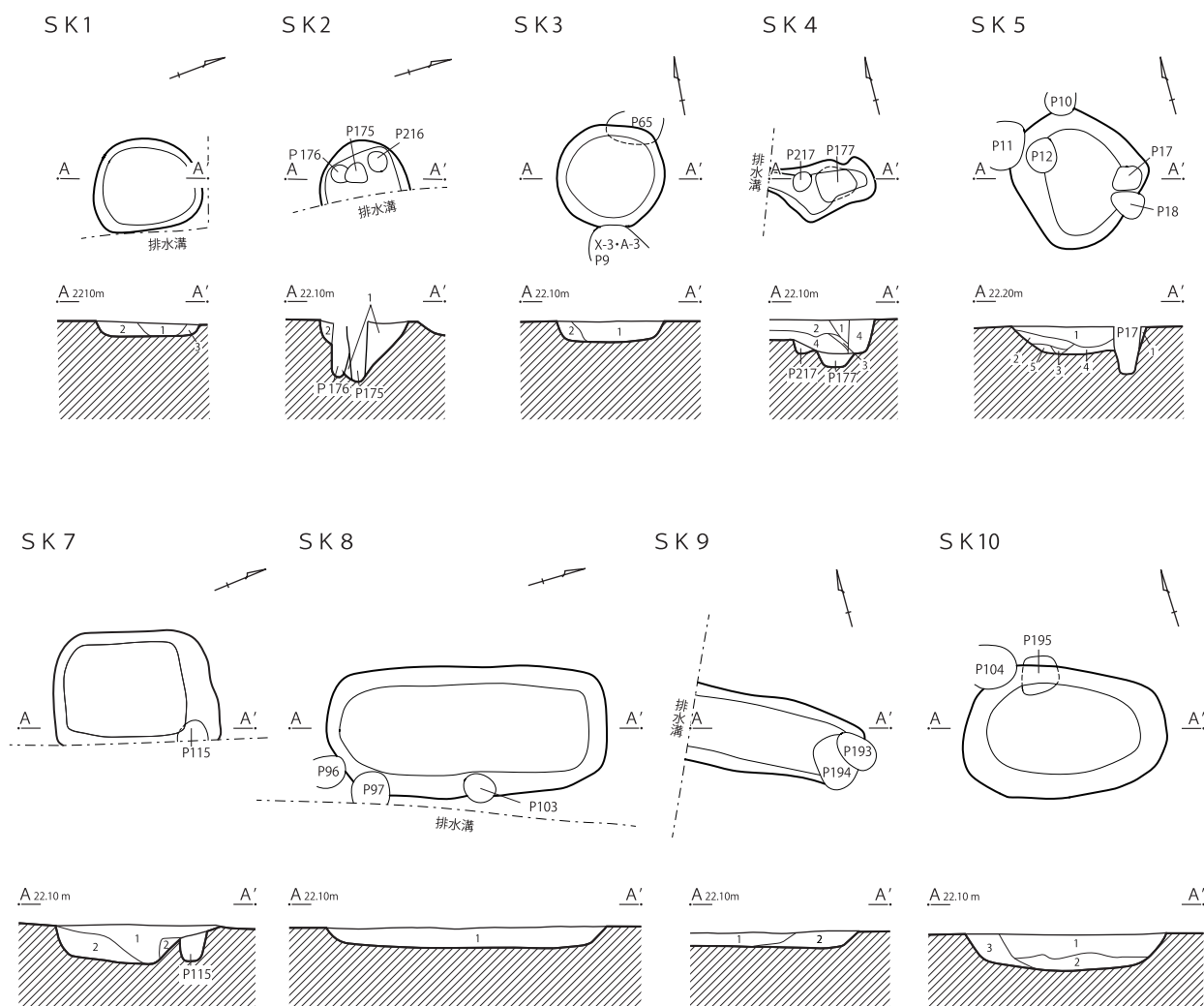
B-2グリッドに位置する。東側は調査区域外に位置する。P92・93・196に壊され、第21号土壌を壊している。平面形態は、長方形である。長軸方位は、N-14°-Eである。

断面形態は箱形を呈する。墓跡と考えられる。覆土の堆積状況には木棺などの痕跡は認められなかった。銭貨と金属製品が出土した。

第19図60は熙寧元寶で、初鑄年は1068年である。同図57は板状鉄製品である。

第17号土壌（第14図）

A-3グリッドに位置する。第13・14号土壌・



0 2m
1:60

SK1

- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックまだらに含む 炭化物少量 焼土微量含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックまだらに少量 炭化物少量含む
- 3 黒褐色土 1層に似るがロームの混入量がやや多い

SK2

- 1 暗褐色土 ロームブロック多量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒多量 焼土・炭化物微量含む

SK3

- 1 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックまだらに含む 炭化物・焼土均等に少量含む
- 2 黒褐色土 1層に似るがローム粒の混入量が多い

SK4

- 1 黒褐色土 ローム粒が集中して含まれる
- 2 黒褐色土 ローム粒均等に多量含む 焼土・炭化物微量含む
- 3 褐色土 ローム粒多量含む
- 4 黒褐色土 ローム粒まだらに含む 焼土・炭化物微量含む

SK5

- 1 黒褐色土 ローム粒多量 焼土・炭化物まだらに少量含む
- 2 黒褐色土
- 3 黒褐色土 ローム粒微量含む
- 4 黒褐色土 ローム粒少量 炭化物微量含む
- 5 明黄褐色土 ロームブロック中に3層土混入

SK7

- 1 暗褐色土 ローム粒不均等に含む 焼土・炭化物微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒少量 焼土・炭化物微量含む

SK8

- 1 暗褐色土 ローム粒まだらに含む 焼土・炭化物微量含む

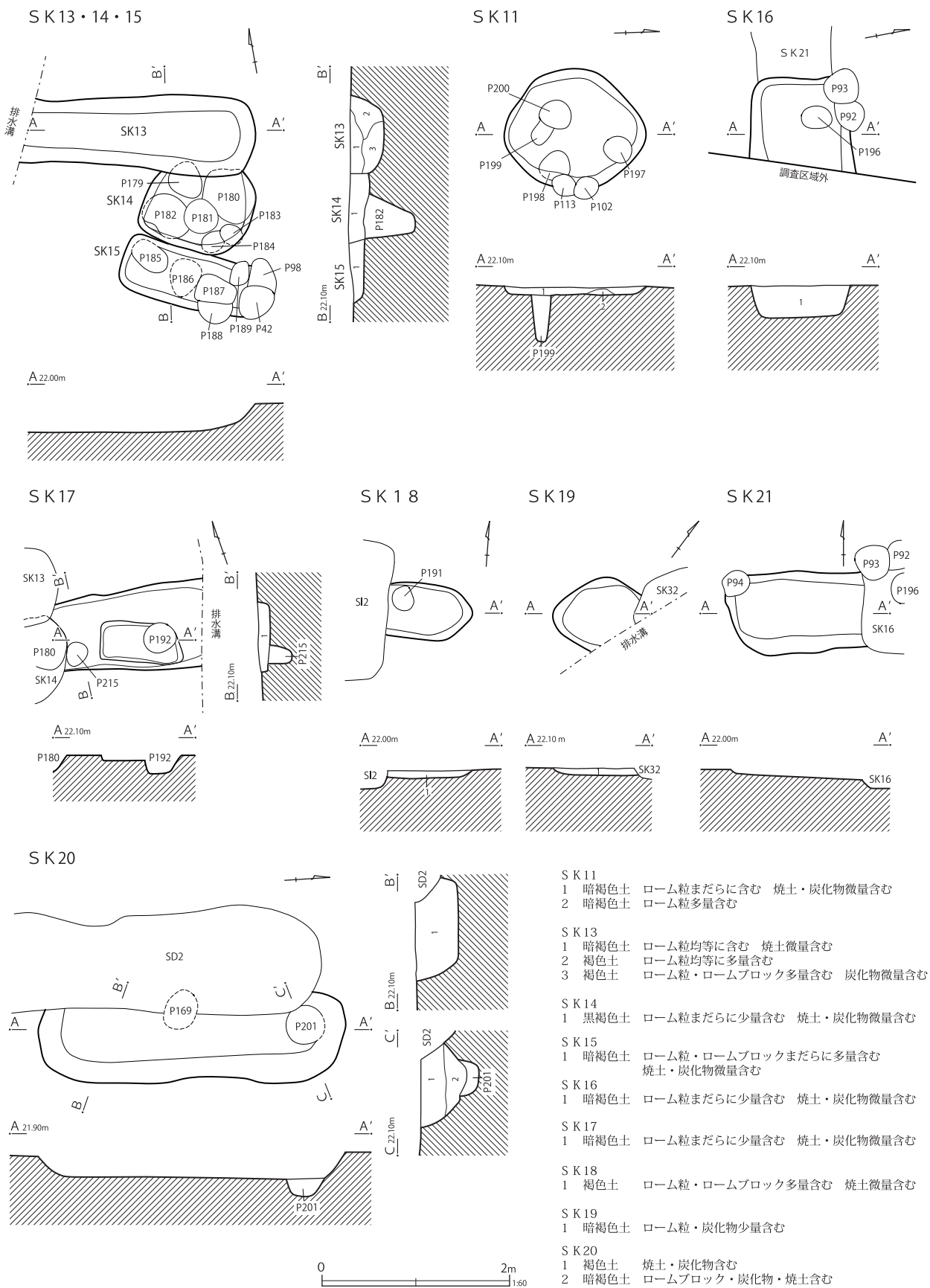
SK9

- 1 暗褐色土 ローム粒微量含む
- 2 暗褐色土 ローム粒均等に多量含む

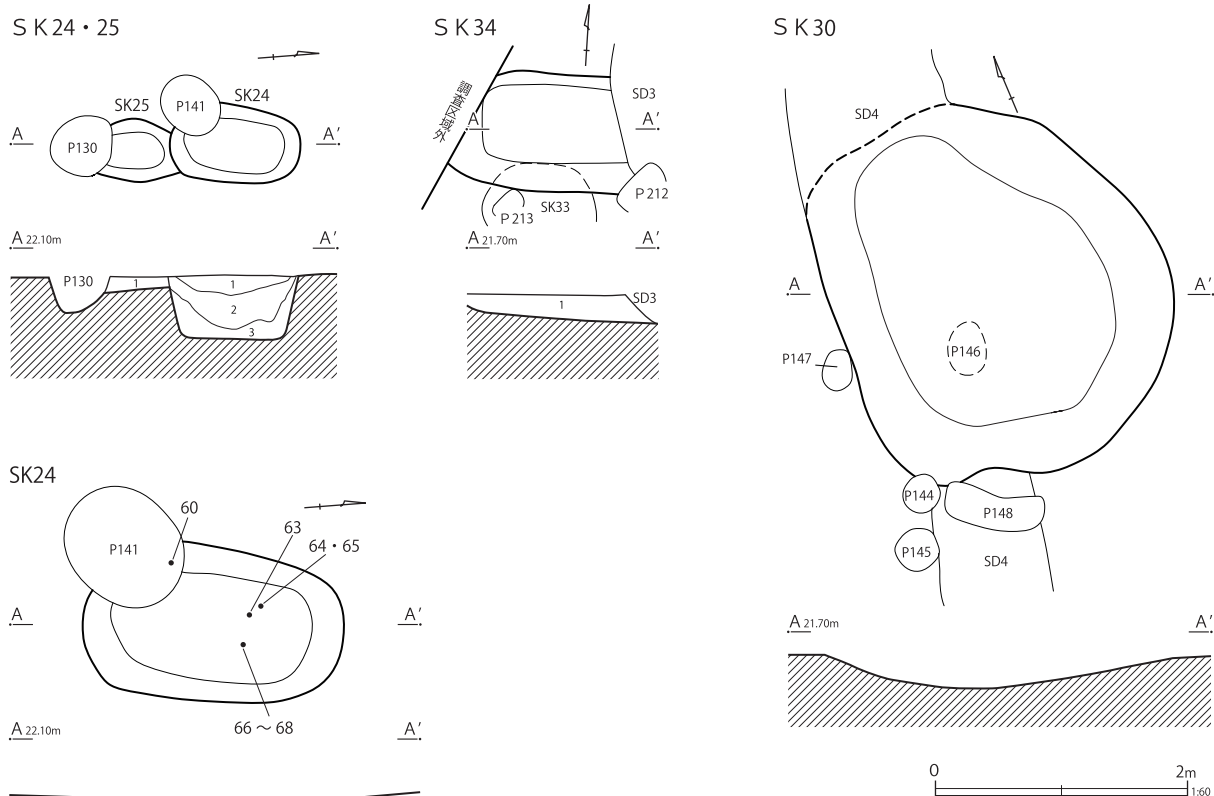
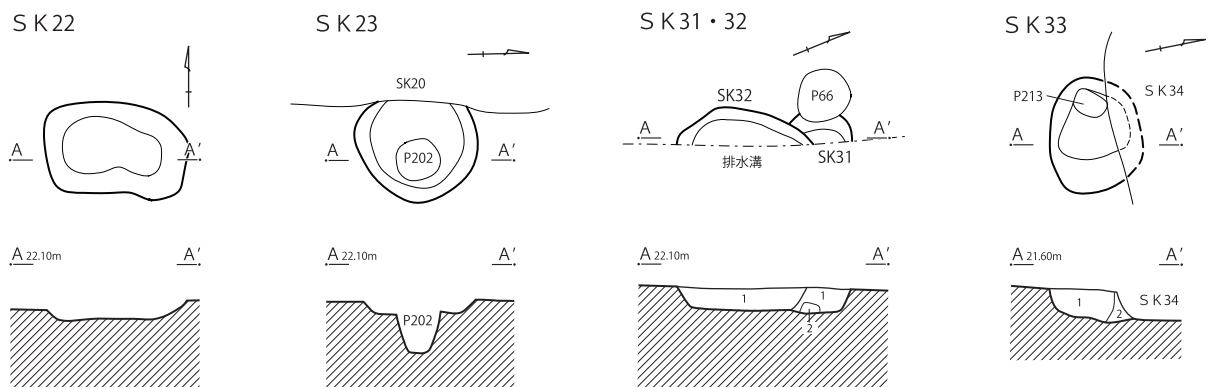
SK10

- 1 黒褐色土 ローム粒まだらに少量含む 焼土・炭化物微量含む
- 2 黒褐色土 1層に似るがロームの混入量が多い
- 3 暗褐色土 ローム粒均等に多量含む 焼土・炭化物微量含む

第13図 土壌 (1)



第14図 土壌 (2)



- SK 24
- 1 灰黄褐色土 ローム粒・炭化物微量含む
 - 2 にぶい黄褐色土 ロームブロック極めて多量 焼土中量含む
 - 3 暗褐色土 焼土微量含む
- SK 25
- 1 にぶい黄褐色土 ローム粒多量 炭化物中量含む
- SK 31
- 1 黒褐色 ローム粒含む
 - 2 暗褐色
- SK 32
- 1 暗褐色 炭化物微量 ローム粒含む
- SK 33
- 1 黒褐色 ローム粒含む
 - 2 黒褐色
- SK 34
- 1 暗褐色

第15図 土壌 (3)

第6表 土壌一覧表 (第13～15図)

遺構名	グリッド	平面形	長軸方位	長径	短径	深さ	重複	遺物
SK1	X3	円形	N-12°-E	0.90	0.76	0.12		第16図1～4
SK2	X3	円形	N-5°-E	0.73	0.46	0.50	P175・176・216より古	第16図5
SK3	X3	円形	N-86°-W	0.89	(0.82)	0.17	P65より新 P9より古	第16図6・7
SK4	X3	不整形	N-68°-W	(0.88)	0.50	0.38	P177・217より新	第16図8～10
SK5	A3	楕円形	N-27°-W	1.14	1.07	0.22	P10・11・12・17・18より古	第16図11～16
SK7	B2	長方形	N-20°-E	1.20	(0.92)	0.32	P115より新	第16図17～19
SK8	B2	隅丸長方形	N-18°-E	2.30	1.09	0.17	P96・97・103より古	第16図20・21 第19図56
SK9	B2	長方形	N-64°-W	1.43	0.64	0.14	P193・194より新	
SK10	B2	楕円形	N-69°-W	1.68	1.13	0.31	P195より新 P104より古	第17図22・23
SK11	B2	円形	N-1°-W	1.50	1.23	0.10	P197・198・199・200より新P102・113より古	第17図24
SK13	A2・3	長方形	N-80°-W	2.46	0.86	0.35	SK14・17・P179・180より新	第17図25
SK14	A2・3	楕円形	N-72°-W	1.18	(0.80)	0.22	SK15・17・P179・180・181・182・183・184より新 SK13より古	第17図26～28
SK15	A2・3	長方形	N-70°-W	(1.37)	(0.61)	0.17	P185・186・187・188・189より新 SK14・P42・98より古	
SK16	B2	長方形	N-14°-E	1.12	(0.98)	0.34	SK21より新 P92・93・196より古	第17図29 第19図57・60
SK17	A3	長方形	N-80°-W	(1.65)	0.93	0.14	SK13・14・P215より古	第17図30～33
SK18	A2	楕円形	N-5°-E	(0.90)	0.60	0.10	P191より新 SK12より古	第17図34
SK19	B2・3	楕円形	N-16°-E	0.85	(0.64)	0.09	SK32より古	
SK20	B2	長方形	N-3°-E	3.28	1.10	0.46	SK23・P169・201・202より新 SD2より古	第17図35～37
SK21	B2	長方形	N-85°-W	(1.49)	0.88	0.10	SK23より新 SK16・P94より古	
SK22	B2	長方形	N-82°-W	1.16	0.73	0.16		
SK23	B2	円形	N-12°-E	0.99	(0.81)	0.41	P202より新か SK20より古	
SK24	B2	楕円形	N-3°-E	1.03	0.62	0.51	SK25より新 P141より古	第19図58・61～66
SK25	B2	楕円形	N-4°-E	(0.65)	0.50	0.13	SK24・P130より古	
SK30	C1・2	円形	N-10°-W	(3.00)	2.70	0.35	SD4・P144・148より新 P146より古	第17図38～40 第18図41～47 第19図53・59
SK31	A3	円形	N-30°-E	(0.50)	0.21	0.15	SK32・P66より古	
SK32	A・B3	楕円形	N-23°-E	1.07	(0.30)	0.18	SK19・31より新	第19図54
SK33	D3	円形	N-82°-W	0.92	(0.81)	0.30	P192・213・214より新	
SK34	C・D1	楕円形	N-87°-E	(1.18)	(0.92)	0.24	SK33より新 SD3より古	第18図48～52 第19図55

P215に壊されていいる。平面形態は、長方形である。

長軸方位は、N-80°-Wである。

第18号土壌 (第14図)

A-2グリッドに位置する。第12号土壌に壊され、P191を壊している。平面形態は、楕円形である。長軸方位は、N-5°-Eである。

第19号土壌 (第14図)

B-2・3グリッドに位置する。第32号土壌に壊されている。平面形態は、楕円形である。長軸方位は、N-16°-Eである。

第20号土壌 (第14図)

B-2グリッドに位置する。第2号溝跡に壊され、第23号土壌・P169・201・202を壊している。平面形態は、長方形である。長軸方位は、N-3°-Eである。

第21号土壌 (第14図)

B-2グリッドに位置する。第16号土壌・P94に壊され、第23号土壌を壊している。平面形態は、長方形で、長軸方位は、N-85°-Wである。

第22号土壌 (第15図)

B-2グリッドに位置する。平面形態は、やや不整な長方形である。長軸方位は、N-82°-Wである。

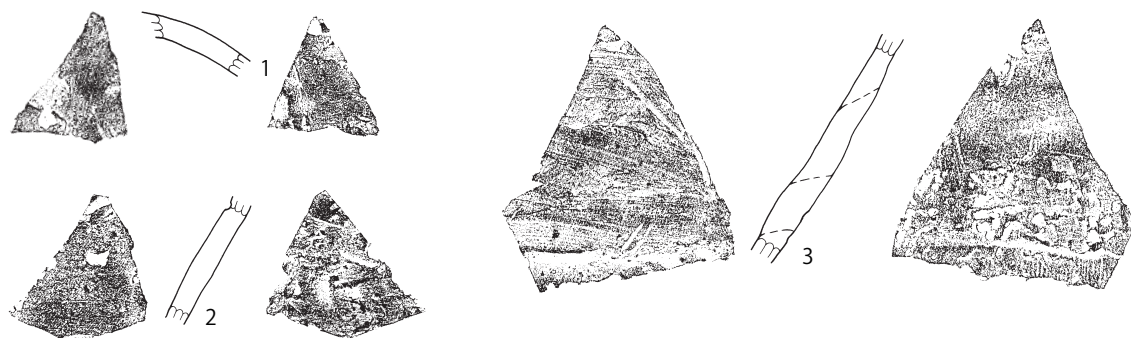
第23号土壌 (第15図)

B-2グリッドに位置する。第20号土壌に壊されている。平面形態は、円形である。

第24号土壌 (第15図)

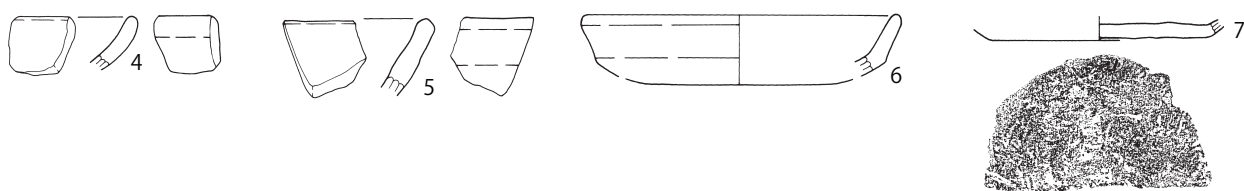
B-2グリッドに位置する。P141に壊され、第25号土壌を壊している。平面形態は、楕円形である。長軸方位は、N-3°-Eである。

SK 1

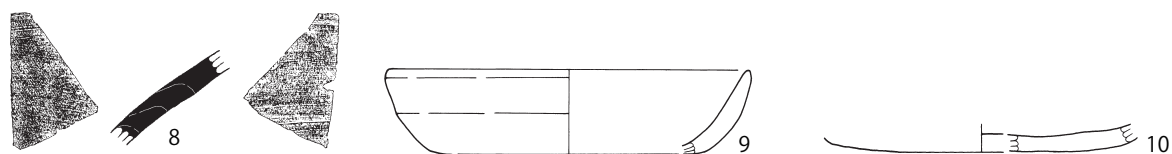


SK 2

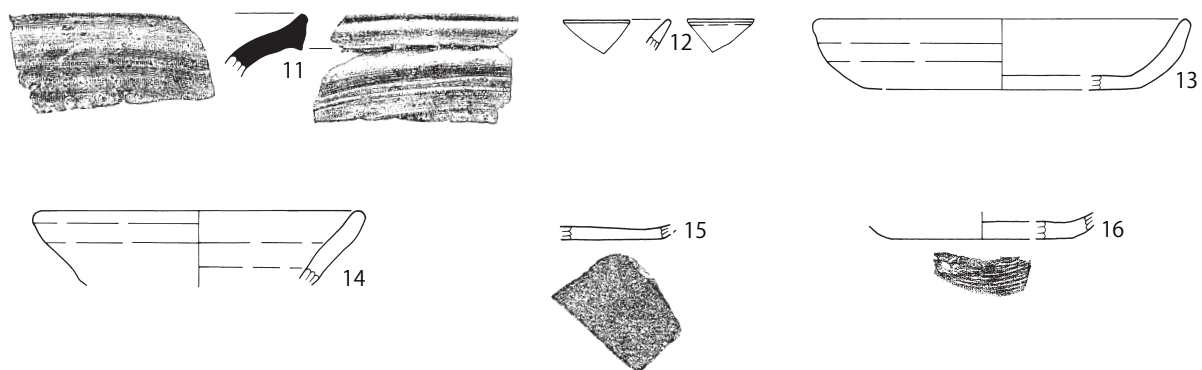
SK 3



SK 4

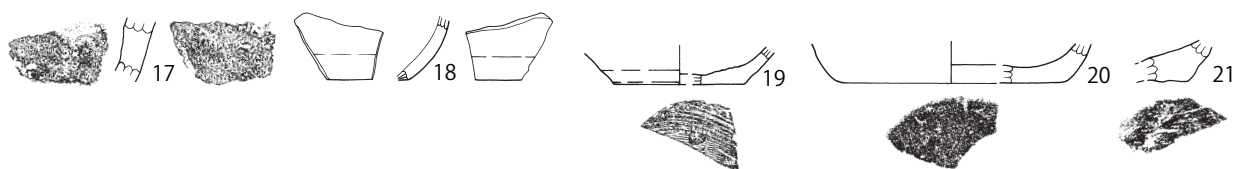


SK 5



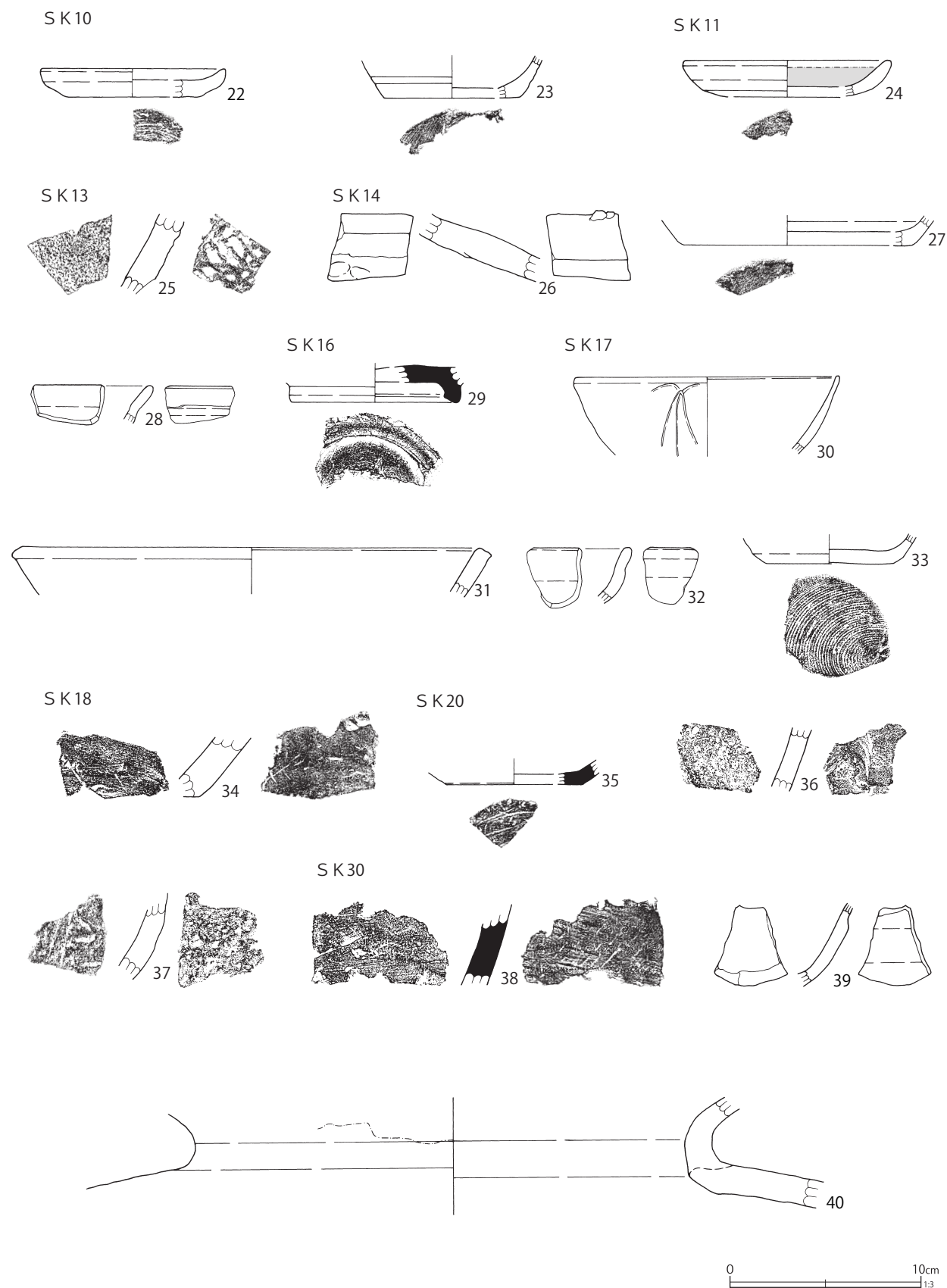
SK 7

SK 8



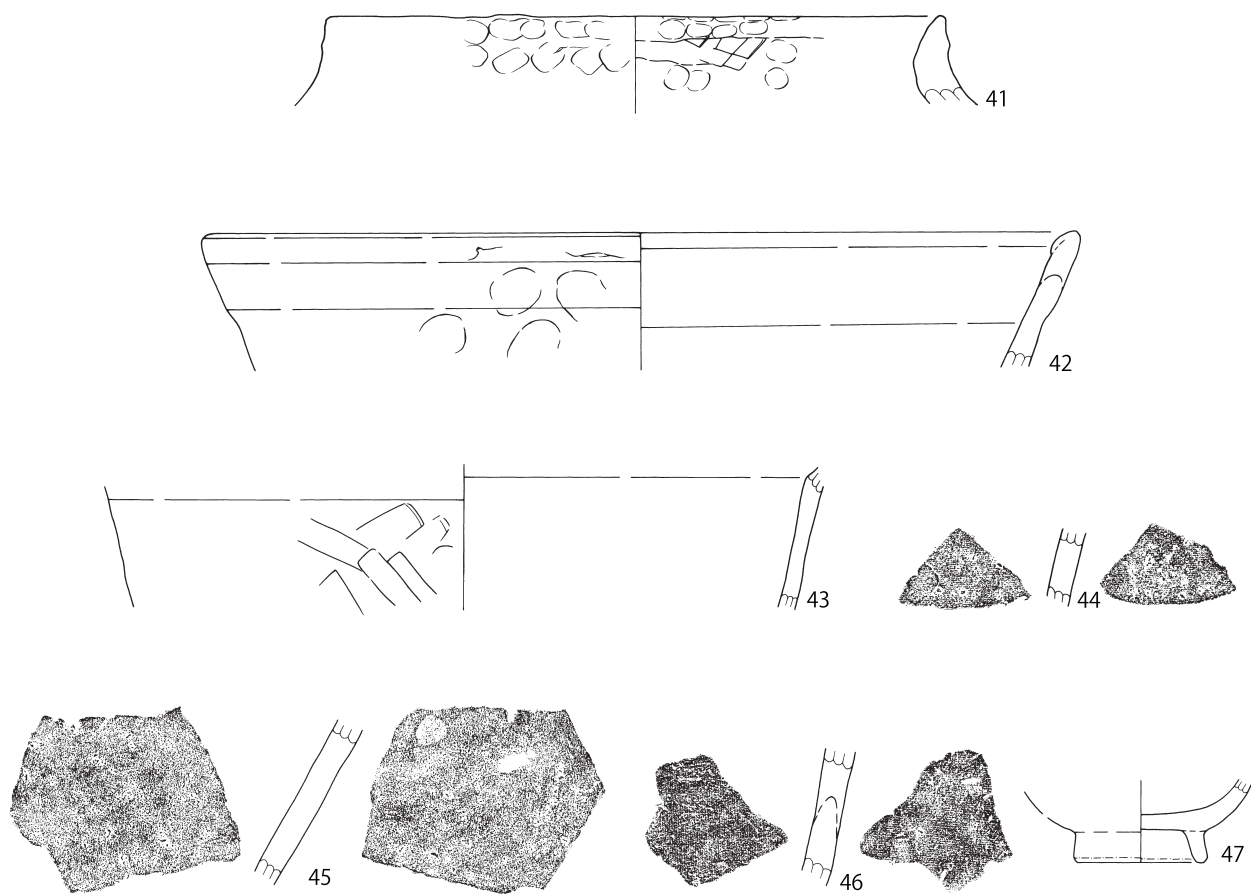
0 10cm
1:3

第16図 土壙出土遺物 (1)

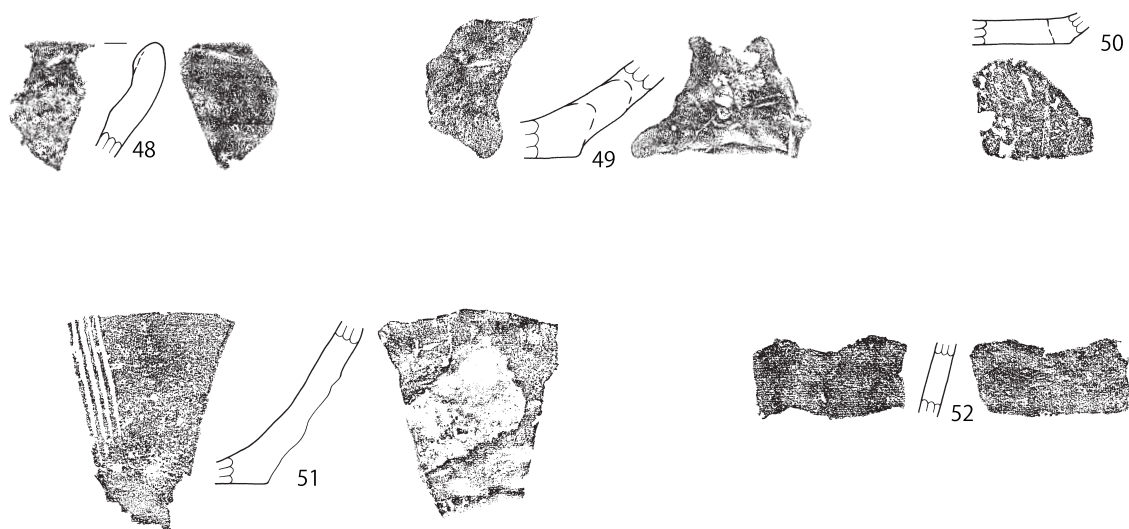


第17図 土壙出土遺物（2）

S K 30



S K 34



第18図 土壙出土遺物（3）

第7表 土壌出土遺物観察表 (第16～19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	陶器	甕	—	(2.50)	—	IK	5	良好	灰白色	SK1 常滑	14-1
2	陶器	壺甕類	—	[5.10]	—	EIK	5	良好	暗灰黄色	SK1 常滑	14-1
3	陶器	甕	—	[9.10]	—	AEIK	5	不良	にぶい黄橙色	SK1 常滑 外面押印文あり	14-1
4	かわらけ	小皿	—	(2.10)	—	HK	5	普通	にぶい橙色	SK1 非ロクロ成形	14-1
5	かわらけ	小皿	—	(3.00)	—	EHK	5	普通	橙色	SK2 非ロクロ成形	14-1
6	かわらけ	小皿	—	(2.40)	—	AHK	15	普通	にぶい橙色	SK3 非ロクロ成形	14-1
7	かわらけ	小皿	—	(0.80)	[8.5]	EH	50	良好	にぶい橙色	SK3 非ロクロ成形	14-1
8	須恵器	甕か	—	(3.70)	—	EHK	5	良好	灰褐色	SK4	14-1
9	かわらけ	小皿	[14.2]	3.30	[10.0]	AIJK	10	普通	にぶい黄橙色	SK4 非ロクロ成形	14-1
10	かわらけ	小皿	—	(1.60)	[10.2]	AH	40	普通	橙色	SK4	14-1
11	須恵器	甕か	—	[2.50]	—	EHK	5	良好	にぶい橙色	SK5	14-1
12	磁器(青磁)	碗	—	(1.20)	—	K	5	良好	灰白色	SK5 中国龍泉窯系	10-2
13	かわらけ	小皿	[14.3]	2.80	[10.6]	AIK	10	普通	にぶい黄橙色	SK5 非ロクロ成形	14-1
14	かわらけ	小皿	(12.8)	[3.10]	—	AHK	10	普通	にぶい橙色	SK5 非ロクロ成形	14-1
15	かわらけ	小皿	—	[0.06]	—	GHIK	5	良好	橙色	SK5 非ロクロ成形	14-1
16	かわらけ	小皿	—	[1.00]	(7.0)	AK	10	普通	にぶい橙色	SK5 ロクロ成形	14-1
17	陶器	壺甕類	—	[2.20]	—	EGK	5	良好	にぶい黄橙色	SK7 常滑	14-1
18	かわらけ	小皿	—	[2.50]	—	JK	5	普通	にぶい黄橙色	SK7	14-1
19	かわらけ	小皿	—	[1.50]	(5.0)	AEHIJK	15	良好	明褐色	SK7内Pit ロクロ成形 底部回転糸切り	9-8
20	かわらけ	小皿	—	[1.60]	(8.6)	AHIK	5	普通	橙色	SK8 ロクロ成形	14-1
21	かわらけ	小皿	—	[1.40]	—	AIK	5	普通	灰黄褐色	SK8 ロクロ成形	14-1
22	かわらけ	小皿	[9.4]	[1.10]	[6.6]	AHK	5	普通	にぶい橙色	SK10 ロクロ成形 底部回転糸切り	13-2
23	かわらけ	小皿	—	[2.20]	(7.0)	EHK	5	良好	にぶい橙色	SK10 ロクロ成形 底部静止糸切り	13-2
24	かわらけ	小皿	(10.8)	(1.90)	(6.0)	CEGI	5	良好	赤褐色	SK11 ロクロ成形 内面全体に油煙付着	12-4
25	陶器	壺甕類	—	[4.20]	—	AIKL	5	良好	暗オリーブ褐色	SK13 常滑 内面全体に降灰 外面に押印文あり	13-1 13-2
26	陶器	甕	—	[3.00]	—	DIK	5	良好	灰黄褐色	SK14P1 常滑	13-2
27	かわらけ	小皿	—	[1.50]	(11.5)	EHK	5	普通	にぶい橙色	SK14 ロクロ成形	13-2
28	かわらけ	小皿	—	[2.00]	—	E	5	不良	橙色	SK14 非ロクロ成形	13-2
29	須恵器	高台付坏	—	[1.90]	(8.6)	IJK	40	良好	にぶい褐色	SK16 南北企地域産	10-4
30	磁器(青磁)	碗	(13.6)	[4.10]	—	K	5	良好	灰黄色	SK17 中国龍泉窯系	
31	陶器	片口鉢	(13.8)	[2.50]	—	HI	5	良好	暗灰黄色	SK17 常滑 内面摩耗する	13-2
32	かわらけ	小皿	—	[3.10]	—	EI	5	不良	橙色	SK17 非ロクロ成形	13-2
33	かわらけ	小皿	—	[1.50]	(6.6)	EH	70	普通	浅黄橙色	SK17 ロクロ成形 底部回転糸切り	13-2
34	瓦質土器	鍋	—	[3.10]	—	EIK	5	良好	灰黄色	SK18	13-2
35	須恵器	坏	—	[1.25]	(7.0)	IJK	10	良好	灰黄色	SK20 南北企地域産	13-2
36	瓦質土器	鍋	—	[3.20]	—	CEI	5	良好	にぶい褐色	SK20 外面煤付着	13-2
37	瓦質土器	鉢か	—	[4.60]	—	EIK	5	不良	にぶい褐色	SK20	13-2
38	須恵器	甕	—	[4.10]	—	IK	5	普通	暗灰黄色	SK30	13-2
39	陶器	折縁中皿か	—	[4.30]	—	I	5	良好	灰白色	SK30No2 瀬戸美濃系 古瀬戸中期様式か 14C初頭	10-5
40	陶器	甕	—	[5.90]	—	I	15	良好	灰黄褐色	SK30No4 常滑 外面肩部自然降灰	14-2
41	瓦質土器	土釜	(24.0)	[3.70]	—	BEIK	10	普通	灰黄褐色	P119 SK30一括	14-2
42	瓦質土器	鉢	(33.8)	[4.40]	—	EK	10	良好	にぶい黄橙色	SK30 外面に指頭痕 口縁部端部内面に激しい摩耗	14-2
43	瓦質土器	鍋	—	[5.70]	—	AHIK	10	良好	にぶい黄色	SK30 内面摩耗	14-2
44	瓦質土器	鍋か	—	[3.00]	—	EIK	5	普通	黄灰色	SK30No4	14-2
45	瓦質土器	鍋か	—	[6.50]	—	EGHIK	5	良好	にぶい橙色	SK30No1 破損後被熱か	14-2
46	瓦質土器	鍋	—	[5.25]	—	EGIK	5	良好	黄褐色	SK30No4 内面摩耗	14-2
47	陶器	碗	—	[3.20]	5.2	IK	85	良好	灰白色	SK30一括 肥前系 17c中～後	10-6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
48	瓦質土器	鍋	—	[4.40]	—	EHIK	5	良好	灰白色	SK34	14-2
49	瓦質土器	鉢	—	[3.80]	—	EIK	5	良好	灰黄褐色	SK34 内面やや摩耗	14-2
50	かわらけ	小皿	—	[1.20]	—	C	5	普通	にぶい橙色	SK34	14-2
51	瓦質土器	描鉢	—	[6.25]	—	CEI	5	良好	にぶい褐色	SK34 内面摩耗 被熱か	14-2
52	瓦質土器	鍋	—	[2.80]	—	EHIK	5	良好	にぶい黄褐色	SK34	14-2
番号	種別	器種	法量						岩石種	備考	図版
53	石製品	砥石	長さ(12.4)cm 幅8.8cm 厚さ1.2cm 重さ164.2 g						片岩	SK30一括	16-4
54	石製品	砥石	重さ35.1 g						粘板岩	SK32	16-5
55	石製品	板碑	重さ904.2 g						緑泥片岩	SK34 基部	16-6
番号	種別	器種	法量						備考		図版
56	金属製品	釘	長さ[3.5]cm 厚さ0.4×0.5cm						火箸か		12-2
57	金属製品	板状製品	長さ[6.5]cm 幅2.1cm 厚さ[0.2]cm								12-2
58	金属製品	棒状製品	長さ[19.5]cm 厚さ[0.6]cm								12-3
59	鉄滓	碗形滓	長さ4.0cm 幅4.8cm 厚さ2.7cm 重量69.6 g								11-6
番号	種別	銭貨名	径(mm)	銭厚(mm)	重さ(g)	初鑄年		備考		図版	
60	銭貨	熙寧元寶	2.48	0.14	(1.7)	北宋1068年		SK16 真書	12-1		
61	銭貨	皇宋通寶	2.44	0.14	(1.4)	北宋1038年		SK24 真書			
62	銭貨	洪武通寶	2.35	0.16	(2.2)	明 1368年		SK24 真書			
63	銭貨	—	2.48	0.10	(2.1)	—		SK24 63から剥離する際に破損 63と表面で接着		12-1	
64	銭貨	開元通寶	2.37	0.12	2.5	唐 621年		SK24 真書	12-1		
65	銭貨	至道元寶	2.41	0.11	2.4	北宋995年		SK24 真書 65と裏面で接着	12-1		
66	銭貨	元祐通寶	2.49	0.11	3.3	北宋1086年		SK24 行書 66と表面で接着	12-1		

断面形態は箱形を呈する。出土遺物から墓跡と考えられるが、木棺などの痕跡は認められなかった。第1・2層は、ロームブロックなどを含み、人為的な埋戻し土の可能性がある。

覆土中層の西側壁付近で棒状の鉄製品が出土し、底面からは銭貨が出土した。銭貨の出土位置はまとまっており、有機質の袋や布などに入れて副葬した様子がうかがわれる。

第19図58は、棒状鉄製品である。火箸の可能性はあるが、1本のみの出土であることに疑問が残る。61～66は銭貨である。62・63と、64～66は接着していた。接着面は62・64を仮に上面とした場合、それぞれ表・表、表・裏・表の順である。6枚中5枚で銭貨名を確認でき、第7表に示した。

第25号土壌 (第15図)

B-2グリッドに位置する。第24号土壌・P130に壊されている。平面形態は、楕円形である。長軸方位は、N-4°-Eである。

第30号土壌 (第15図)

C-1・2グリッドに位置する。P146に壊され、

第4号溝跡・P144・148を壊している。平面形態は、やや不整な円形である。長軸方位は、N-10°-Wである。平面プランでは確認できず、トレンチの土層断面によって発見された。不整形な窪みであり、立ち上がりも緩やかで不明瞭である。出土遺物のうち、第18図47は肥前系の碗である。17世紀中葉から後葉の所産で、他と比較して時期が新しい。遺物は、土壌底面において検出された柱状に積まれた石の中から出土しており、時期の新しいピットが存在していた可能性がある。

第19図59は鉄滓である。円形の碗形滓で一部欠損している。上面は、やや凹凸が見られ、右側半分には鉄錆が付着している。下面は、小さな凹凸と円形の凹みが多くみられる。重量があり、比重が高く、破面を見ると緻密な滓である。

第31号土壌 (第15図)

A-3グリッドに位置する。第32号土壌・P66に壊されている。平面形態は、円形である。

第32号土壌 (第15図)

A・B-3グリッドに位置する。第19・31土壌

を壊している。平面形態は楕円形である。長軸方位は、N-23°-Eである。

第33号土壌 (第15図)

D-3グリッドに位置する。P192・213・214を壊している。平面形態は、円形である。

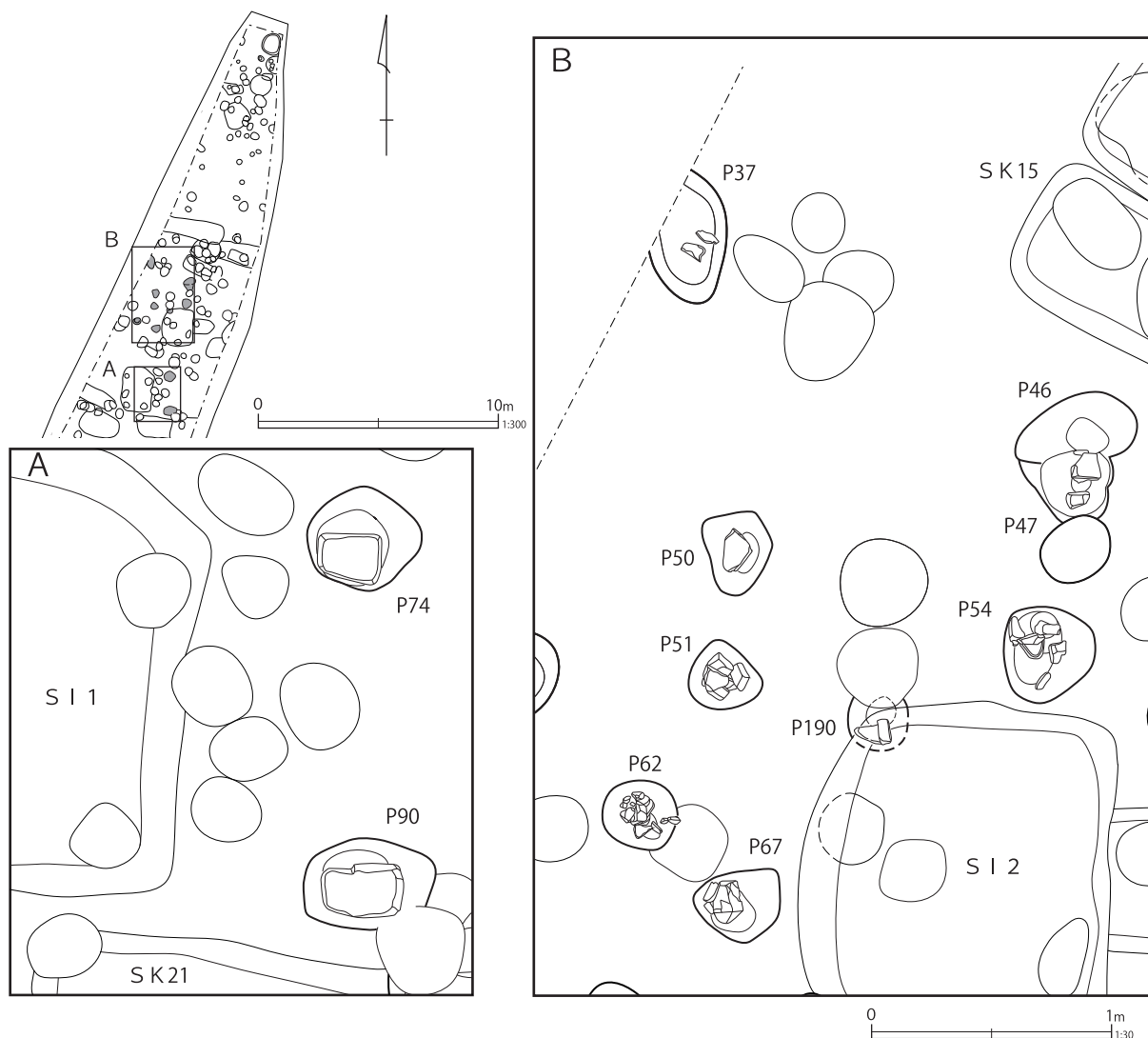
4. ピット

検出されたピットは、211基である。ピット番号は、発掘調査時、検出順に北側から付した。半裁後に、遺構でないことが分かったものは欠番とした。覆土は、黒褐色土と暗褐色土に大別でき、含有物の種類や量で、12種類に分類した。多くが単層であり、柱痕は認められなかった。ただし、P182の8層は柱痕の可能性ある。

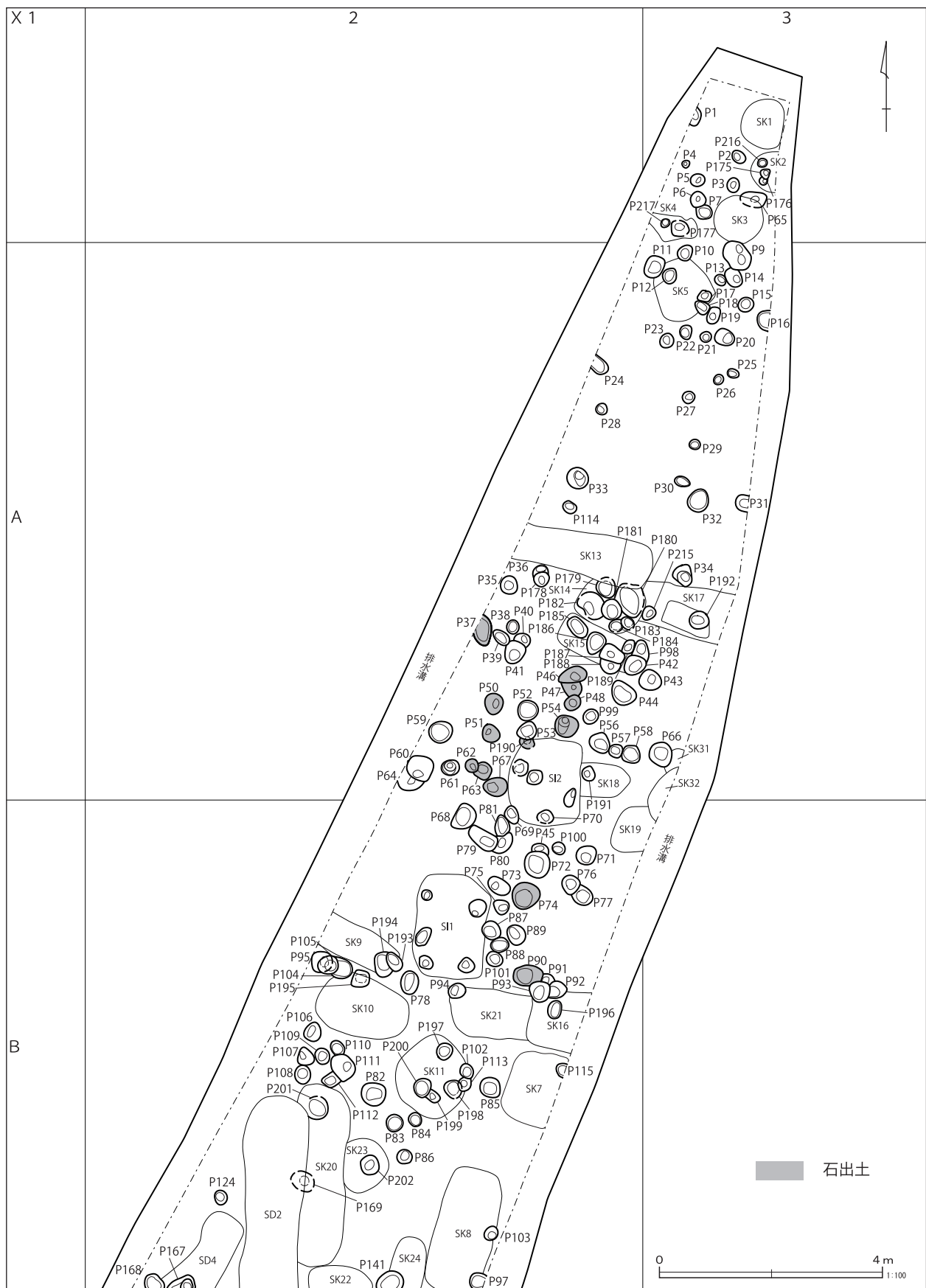
第34号土壌 (第15図)

C・D-1グリッドに位置する。第3号溝跡に壊され、第33号土壌を壊している。平面形態は、楕円形である。長軸方位は、N-89°-Eである。

第20図に石が出土したピットの微細図を示した。Aからは板状の石が、Bからは複数の礫が出土した。これらの石は根石の可能性はあるが、調査において、建物跡などとなる方形の組み合わせは確認できなかった。一方で、柵列跡や門跡を成す可能性があると考えられる。これらについては、まとめにおいて詳述する。



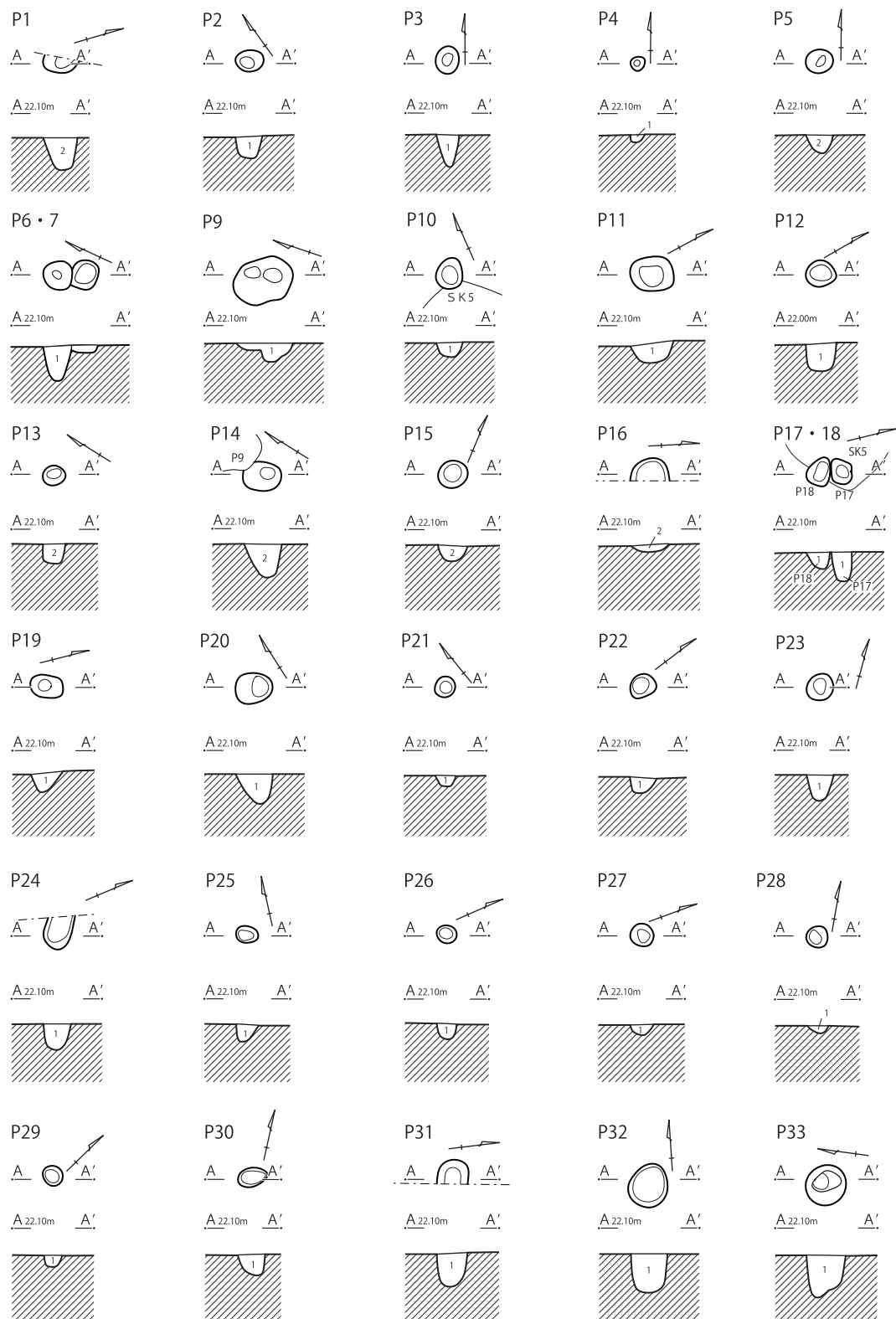
第20図 石出土ピット微細図



第21図 ピット分布状況 (1)



第22図 ピット分布状況 (2)

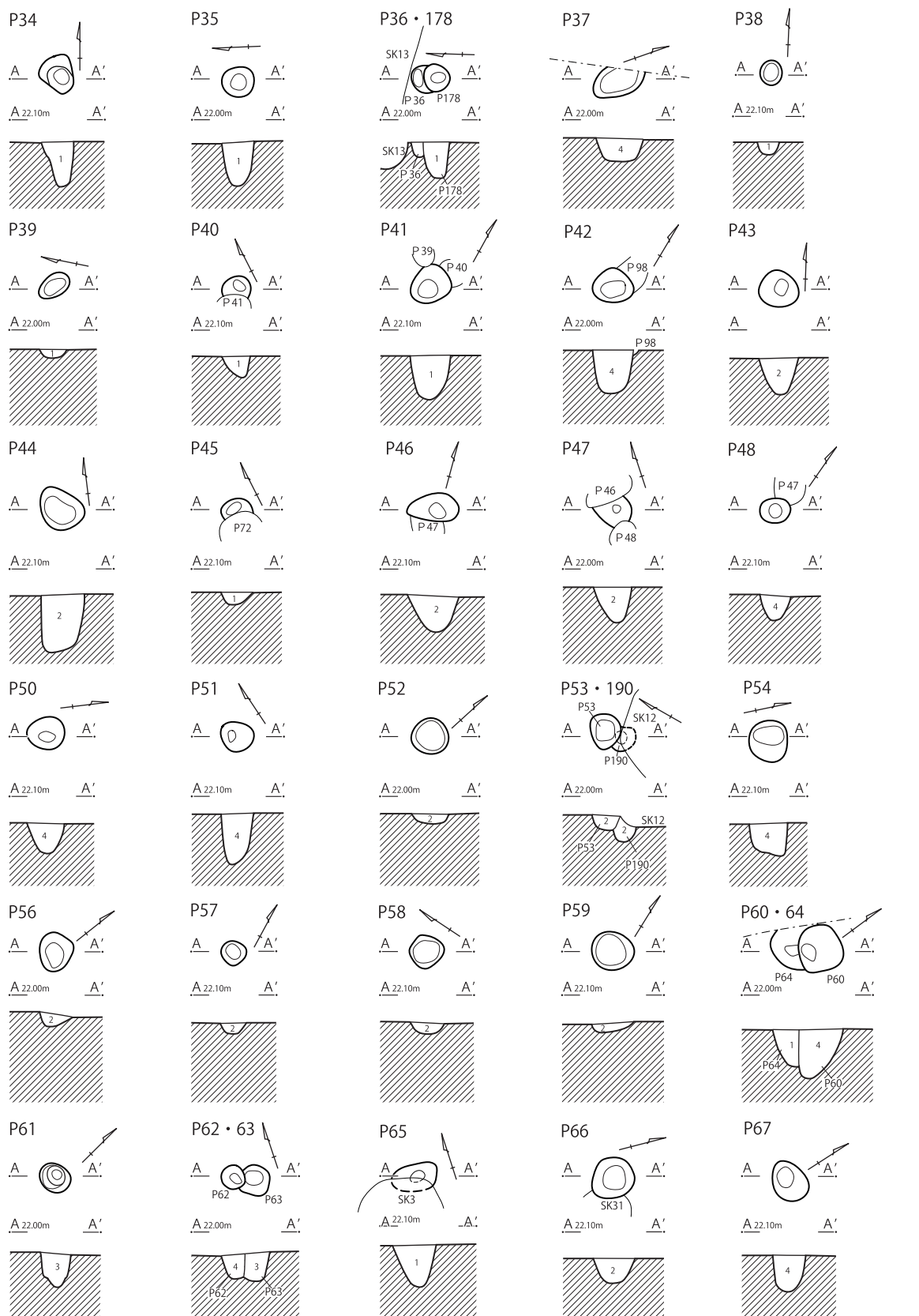


1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む

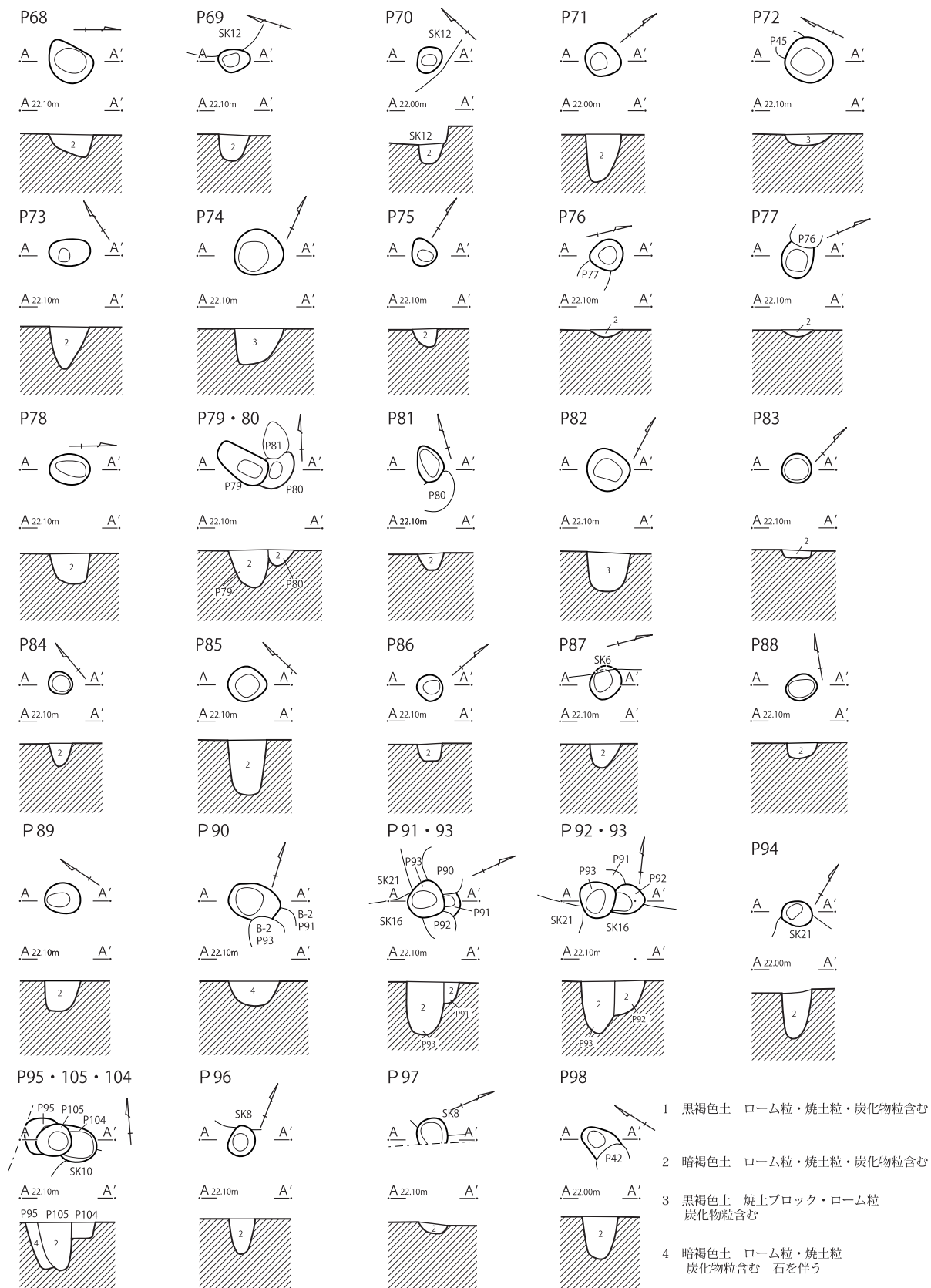
2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む



第23図 ピット (1)

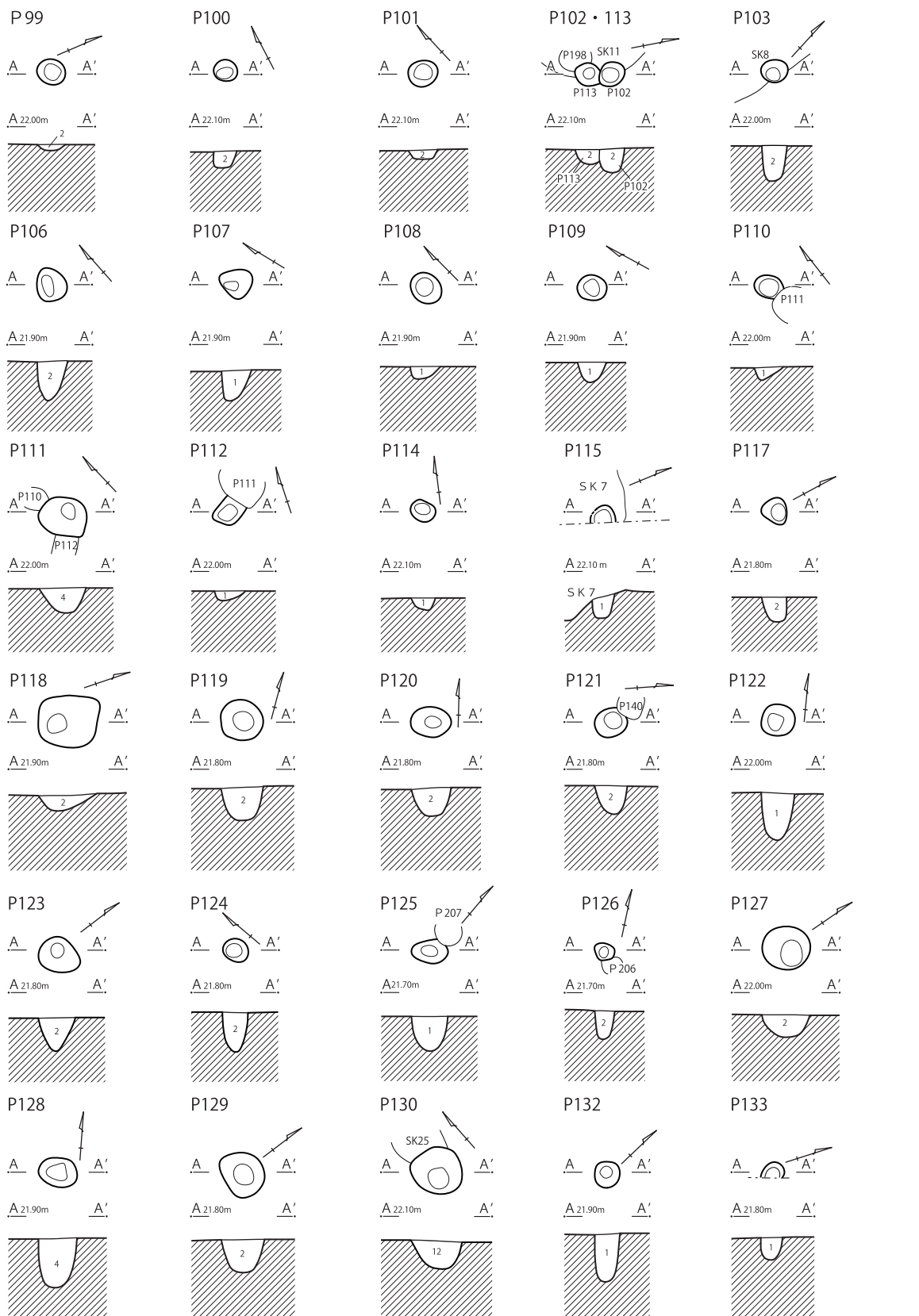


第24図 ピット (2)



0 2m 1:60

第25図 ピット (3)

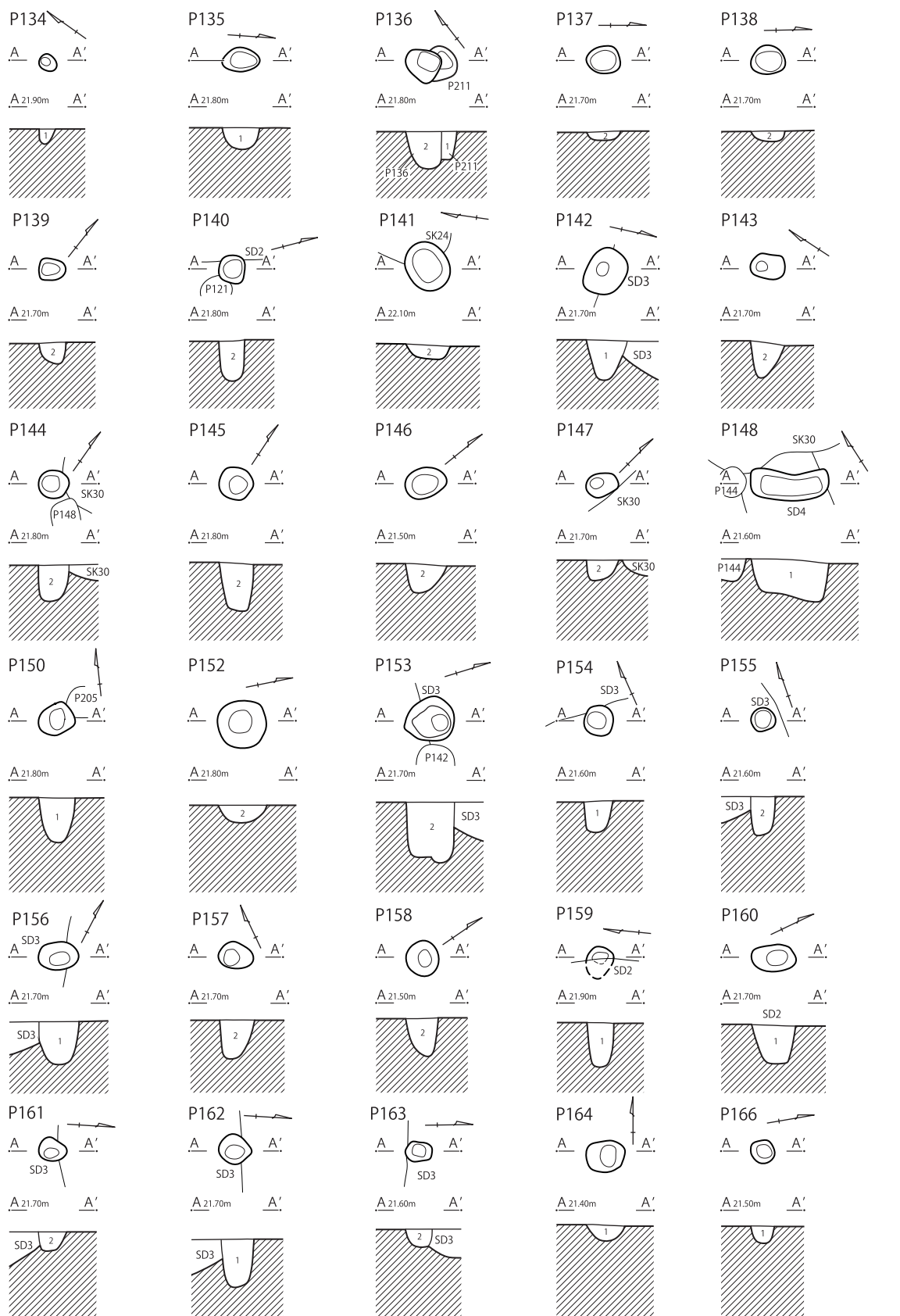


1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む
2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む

4 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む 石を伴う
12 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・炭化物粒微量含む

0 2m
1:60

第26図 ピット (4)

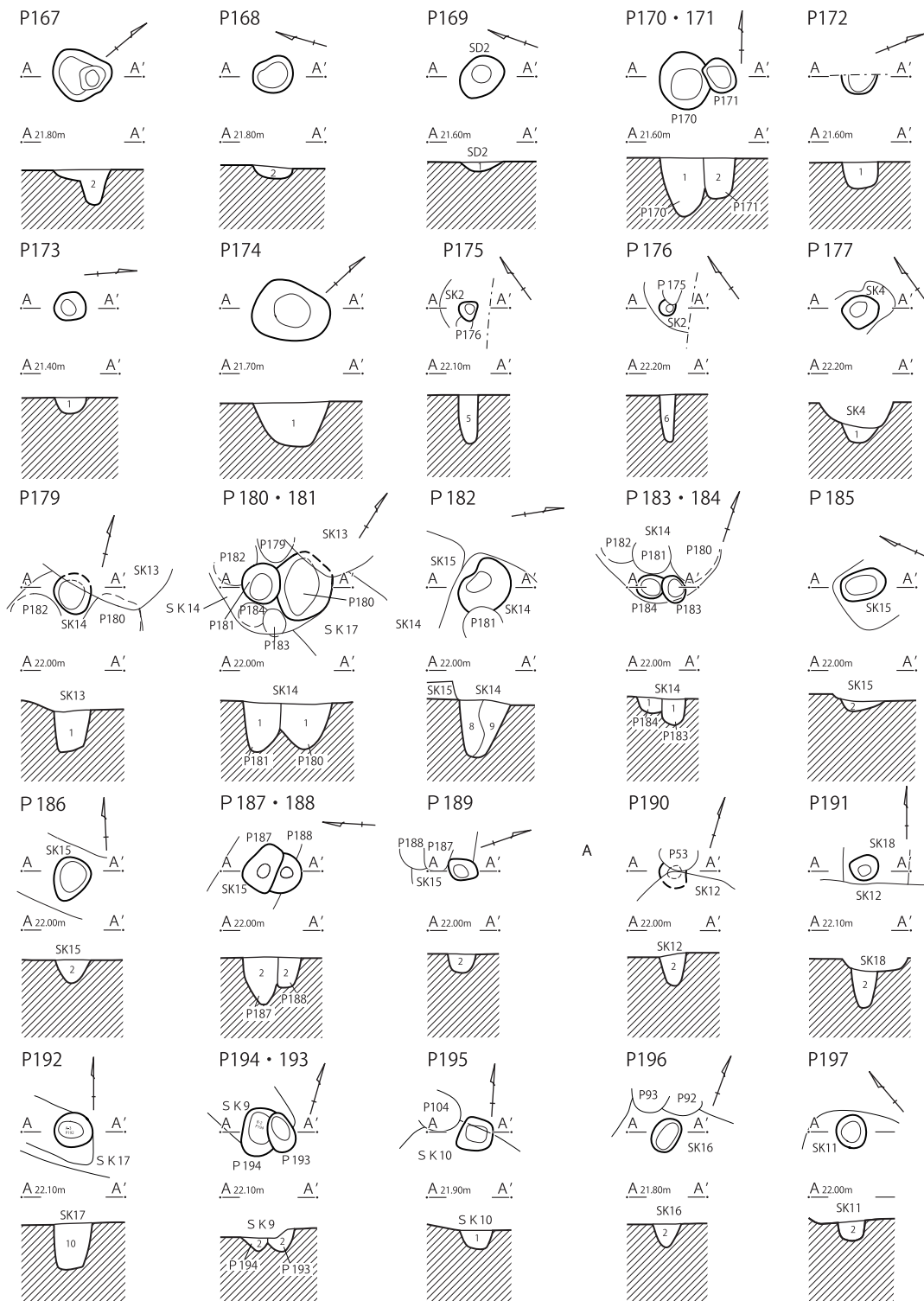


1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む

2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む

0 2m 1:60

第27図 ピット (5)



1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む

2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒含む

5 暗褐色土 ローム粒部分的に多く含む 焼土粒・炭化物わずかに含む

6 暗褐色土 ローム粒多く含む 焼土粒・炭化物わずかに含む

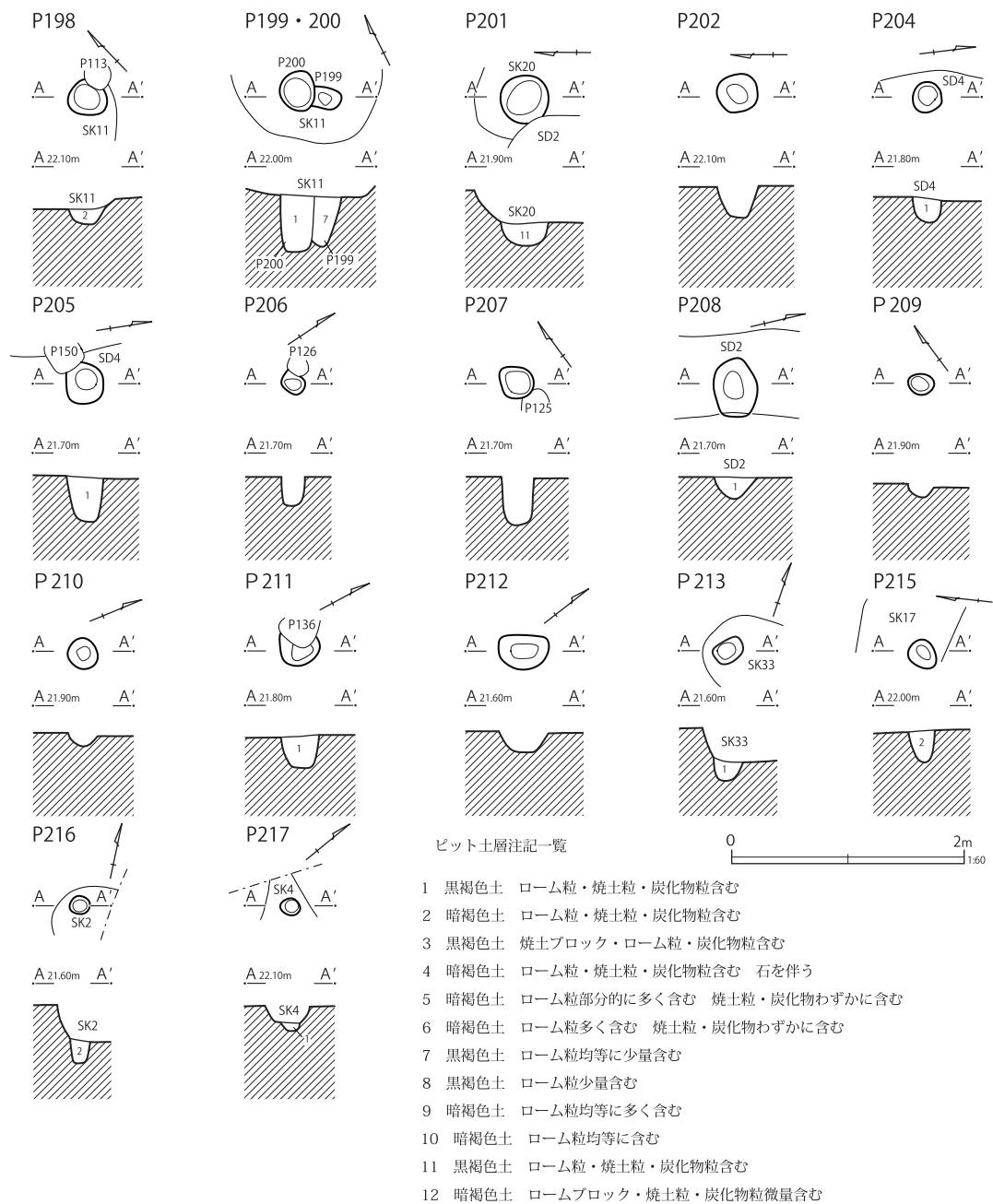
8 黒褐色土 ローム粒少量含む

9 暗褐色土 ローム粒均等に多く含む

10 暗褐色土 ローム粒均等に含む

0 2m 1:50

第28図 ピット (6)



第29図 ピット (7)

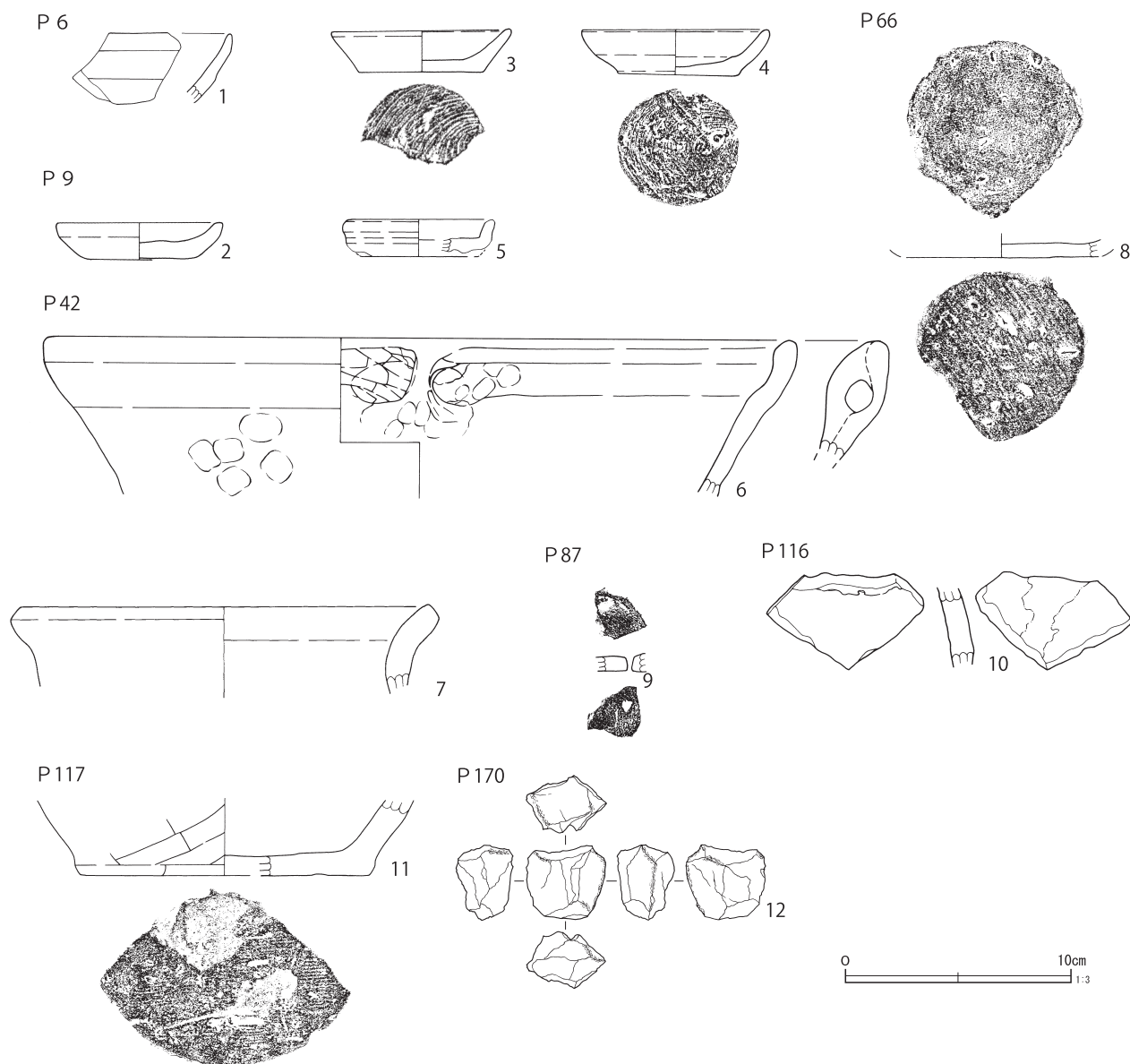
第8表 ピット一覧表 (23～29図)

遺構名	グリッド	長径	短径	深さ	重複遺構	遺構名	グリッド	長径	短径	深さ	重複遺構
1	X-3	0.32	(0.15)	0.30		10	A-3	0.30	0.23	0.15	SK5より新
2	X-3	0.25	0.20	0.20		11	A-3	0.40	0.32	0.20	SK5より新
3	X-3	0.25	0.22	0.30		12	A-3	0.28	0.25	0.28	SK5より新
4	X-3	0.15	0.12	0.08		13	A-3	0.22	0.20	0.20	
5	X-3	0.25	0.24	0.18		14	A-3	0.35	0.28	0.30	P9より古
6	X-3	0.30	0.28	0.32	P7より新	15	A-3	0.30	0.25	0.15	
7	X-3	0.30	0.25	0.08	P6より古	16	A-3	(0.22)	0.35	0.08	
9	X-3・4	0.58	0.40	0.18	SK3より新	17	A-3	0.25	0.20	0.30	SK5より新

遺構名	グリッド	長径	短径	深さ	重複遺構
18	A-3	0.30	0.15	0.15	SK5より新
19	A-3	0.32	0.25	0.20	
20	A-3	0.35	0.30	0.30	
21	A-3	0.20	0.20	0.10	
22	A-3	0.25	0.20	0.15	
23	A-3	0.28	0.25	0.25	
24	A-2	(0.32)	0.25	0.25	
25	A-3	0.20	0.15	0.15	
26	A-3	0.20	0.18	0.15	
27	A-3	0.21	0.20	0.10	
28	A-2	0.22	0.20	0.08	
29	A-3	0.20	0.18	0.10	
30	A-3	0.28	0.18	0.20	
31	A-3	(0.25)	0.30	0.30	
32	A-3	0.45	0.38	0.38	
33	A-2	0.40	0.38	0.40	
34	A-2	0.38	0.28	0.45	
35	A-2	0.33	0.33	0.45	
36	A-2	0.28	(0.11)	0.15	
37	A-2	(0.45)	0.35	0.25	
38	A-2	0.25	0.20	0.14	
39	A-2	0.35	0.22	0.10	
40	A-2	0.30	0.25	0.20	
41	A-2	0.41	0.33	0.45	
42	A-2・3	0.41	0.36	0.43	
43	A-2	0.40	0.36	0.38	
44	A-2	0.49	0.38	0.60	
45	B-2	0.30	(0.15)	0.13	
46	A-2	0.52	0.28	0.37	
47	A-2	(0.30)	0.32	0.35	
48	A-2	0.30	0.28	0.25	
50	A-2	0.38	0.33	0.30	
51	A-2	0.34	0.32	0.52	
52	A-2	0.38	0.38	0.10	
53	A-2	0.38	0.30	0.15	
54	A-2	0.43	0.38	0.34	
56	A-2	0.40	0.33	0.15	
57	A-2	0.25	0.24	0.10	
58	A-2	0.35	0.35	0.10	
59	A-2	0.43	0.40	0.10	
60	A-2	0.50	(0.45)	0.50	
61	A-2	0.33	0.28	0.34	
62	A-2	0.25	0.25	0.25	
63	A-2	0.33	0.33	0.30	
64	A-2	0.45	(0.27)	0.37	
65	X-3	0.48	0.28	0.42	SK3より古 SK31より新
66	A-3	0.48	0.42	0.25	
67	A-2	0.44	0.33	0.37	
68	B-2	0.50	0.37	0.24	

遺構名	グリッド	長径	短径	深さ	重複遺構
69	B-2	0.33	0.24	0.26	SI2より新 SI2より古
70	B-2	0.30	0.24	0.20	
71	B-2	0.38	0.35	0.49	P45より新
72	B-2	0.49	0.46	0.11	
73	B-2	0.42	0.28	0.44	
74	B-2	0.50	0.48	0.38	
75	B-2	0.29	0.25	0.19	
76	B-2	0.35	0.31	0.08	P77より新
77	B-2	(0.33)	0.32	0.07	P76より古
78	B-2	0.42	0.31	0.31	P80より新 P79.P81より古 P80より新
79	B-2	0.55	0.30	0.39	
80	B-2	0.46	0.31	0.16	
81	B-2	0.37	0.27	0.17	
82	B-2	0.44	0.41	0.40	SI1より新
83	B-2	0.31	0.30	0.08	
84	B-2	0.25	0.23	0.24	
85	B-2	0.40	0.36	0.55	
86	B-2	0.27	0.25	0.18	
87	B-2	0.35	0.32	0.25	
88	B-2	0.32	0.28	0.15	
89	A-2	0.38	0.31	0.31	
90	B-2	0.53	0.37	0.25	
91	B-2	(0.17)	(0.22)	0.23	
92	B-2	(0.31)	0.29	0.35	P91より新 P93より古 P90.P92.P93より古 SK16.P91より新P93より古 SK16.21.P90.P91.P92より新 SK21より新 P105より古 SK8より新 SK8より新 SK15より新 P42より古
93	B-2	0.40	0.38	0.55	
94	B-2	0.31	0.26	0.48	
95	B-2	0.39	(0.15)	0.49	
96	B-2	0.31	0.26	0.35	
97	B-2	(0.25)	0.31	0.10	
98	A-2・3	(0.30)	0.26	0.43	
99	A-2	0.29	0.25	0.06	
100	B-2	0.24	0.21	0.16	
101	B-2	0.29	0.26	0.09	
102	B-2	0.29	0.24	0.23	SK11.P113より新 SK8より新 SK10より新 P105より古 P95.P104より新 P111より古 P110.P112より新 P111より古 SK11.P198より新 P102より古 SK7より古
103	B-2	0.26	0.22	0.35	
104	B-2	(0.26)	0.36	0.16	
105	B-2	0.35	0.33	0.49	
106	B-2	0.34	0.30	0.39	
107	B-2	0.32	0.29	0.30	
108	B-2	0.34	0.29	0.10	
109	B-2	0.29	0.25	0.20	
110	B-2	(0.26)	0.24	0.12	
111	B-2	0.50	0.40	0.25	
112	B-2	(0.35)	(0.30)	0.08	
113	B-2	(0.25)	0.22	0.15	
114	A-2	0.25	0.20	0.12	
115	B-2	(0.27)	(0.18)	0.22	
117	C-1	0.28	0.25	0.25	SK7より古
118	C-1	0.68	0.55	0.15	

遺構名	グリッド	長径	短径	深さ	重複遺構	遺構名	グリッド	長径	短径	深さ	重複遺構
119	C-1	0.44	0.40	0.33	P140より古	170	D-1	0.55	0.40	0.53	SD3より新 P171より古
120	C-1	0.40	0.30	0.28		171	D-1	0.31	0.28	0.38	SD3.P170より新
121	C-2	0.33	0.30	0.28		172	C-1	(0.18)	0.30	0.34	SD3より新
122	C-2	0.35	0.35	0.45		173	C-1	0.30	0.25	0.15	
123	B-2	0.43	0.35	0.32		174	D-2	0.71	0.58	0.40	
124	B-2	0.25	0.22	0.40	SD4より新	175	X-3	0.21	0.20	0.45	SK2.P176より新
125	C-1・2	0.37	0.25	0.25	P207より古	176	X-3	(0.12)	0.15	0.40	SK2より新 P175より古
126	C-1	0.20	0.17	0.27	P206より新	177	X-3	0.33	0.30	0.15	SK4より古
127	C-2	0.48	0.45	0.22	SK25より新	178	A-2	0.27	0.25	0.38	P36より新
128	C-2	0.40	0.30	0.48		179	A-2	(0.37)	0.32	0.36	SK14より新 SK13より古
129	C-1	0.50	0.40	0.32		180	A-2	(0.65)	(0.46)	0.42	SK14より新 SK13.P181より古
130	B-2	0.53	0.45	0.27		181	A-2	0.35	0.35	0.46	SK14.P180.P182より新
132	C-2	0.27	0.27	0.47		182	A-2	(0.46)	0.45	0.48	SK14.P181より古
133	C-2	(0.25)	(0.15)	0.22		183	A-2	0.25	0.20	0.25	SK14より古 P184より新
134	C-2	0.20	0.15	0.15		184	A-2	(0.25)	0.21	0.15	SK14.P183より古
135	C-2	0.40	0.15	0.20		185	A-2	0.42	0.26	0.09	SK15より古
136	C-2	0.36	0.35	0.37		186	A-2	0.41	0.31	0.20	SK15より古
137	D-1	0.32	0.29	0.08		187	A-2	0.45	0.30	0.44	SK15.P188より新
138	D-1	0.34	0.30	0.10	SD2.P121より新	188	A-2	0.40	(0.25)	0.29	SK15より新 P187より古
139	D-1	0.28	0.22	0.20		189	A-2	0.30	0.20	0.16	SK15より新
140	C-2	0.32	0.30	0.40		190	A-2	0.29	(0.15)	0.30	SI2.P53より古
141	B-2	0.50	0.43	0.13		191	A-2	0.27	0.24	0.35	SK18より新
142	D-2	0.50	0.40	0.40		192	A-3	0.35	0.35	0.41	SK17より新
143	C-1・2	0.35	0.30	0.35	SD4より新	193	B-2	0.36	0.24	0.20	SK9.P194より新
144	C-1	0.33	0.30	0.35	SD4.SK30より新	194	B-2	0.45	(0.25)	0.11	SK9より新 P193より古
145	C-1	0.35	0.35	0.47	SD4より新	195	B-2	0.36	0.33	0.16	SK10より古
146	C-2	0.42	0.33	0.28	SK30より古	196	B-2	0.33	0.25	0.20	SK16より新
147	C-1	0.33	0.23	0.20	SD4.SK30より新	197	B-2	0.36	0.27	0.17	SK11より新
148	C-1・2	0.80	0.27	0.38		198	B-2	0.34	(0.31)	0.14	SK11より新 P113より古
150	C-1	0.37	0.35	0.45		199	B-2	(0.20)	0.18	0.45	SK11より新 P200より古
152	C-2	0.53	0.52	0.17		200	B-2	0.34	0.30	0.49	SK11.P199より新
153	D-2	0.53	0.45	0.62		201	B-2	(0.42)	0.42	0.19	SD2.SK20より古
154	D-1	0.32	0.32	0.30	SD3より新	202	B-2	0.35	0.34	0.26	SK23より新
155	C-1	0.25	0.25	0.40	SD3より新	204	C-1	0.25	0.25	0.20	SD4より古
156	C-1	0.40	0.30	0.45	SD3より新	205	C-1	(0.34)	0.35	0.39	SD4より新 P150より古
157	C-2	0.35	0.28	0.40	SD2より古	206	C-1	0.20	0.18	0.25	P126より古
158	D-2	0.35	0.35	0.38		207	C-1・2	0.32	0.30	0.41	P125より新
159	B-2	0.35	0.25	0.45		208	C-2	0.53	0.37	0.19	SD2より古
160	C-2	0.45	0.28	0.39		209	C-2	0.18	0.18	0.10	P136より古
161	D-1	0.28	0.25	0.20	SD3より新	210	C-2	0.28	0.25	0.10	
162	D-1	0.33	0.30	0.48	SD3より新	211	C-2	0.35	(0.17)	0.26	
163	D-1	0.26	0.19	0.18	SD3より新	212	D-1	0.40	0.32	0.17	
164	D-1	0.38	0.37	0.15	SD3より新	213	D-1	0.26	0.20	0.16	
166	D-1	0.24	0.24	0.15	SD5より新	215	A-3	0.26	0.23	0.26	SK17より新
167	B-2	0.54	0.47	0.31	SD4より新	216	X-3	0.18	0.18	0.20	SK2より新
168	B-2	0.39	0.31	0.10	SD4より新	217	X-3	0.18	0.15	0.07	SK4より古
169	B-2	0.44	0.35	0.10	SD2.SK20より古						



第30図 ピット出土遺物

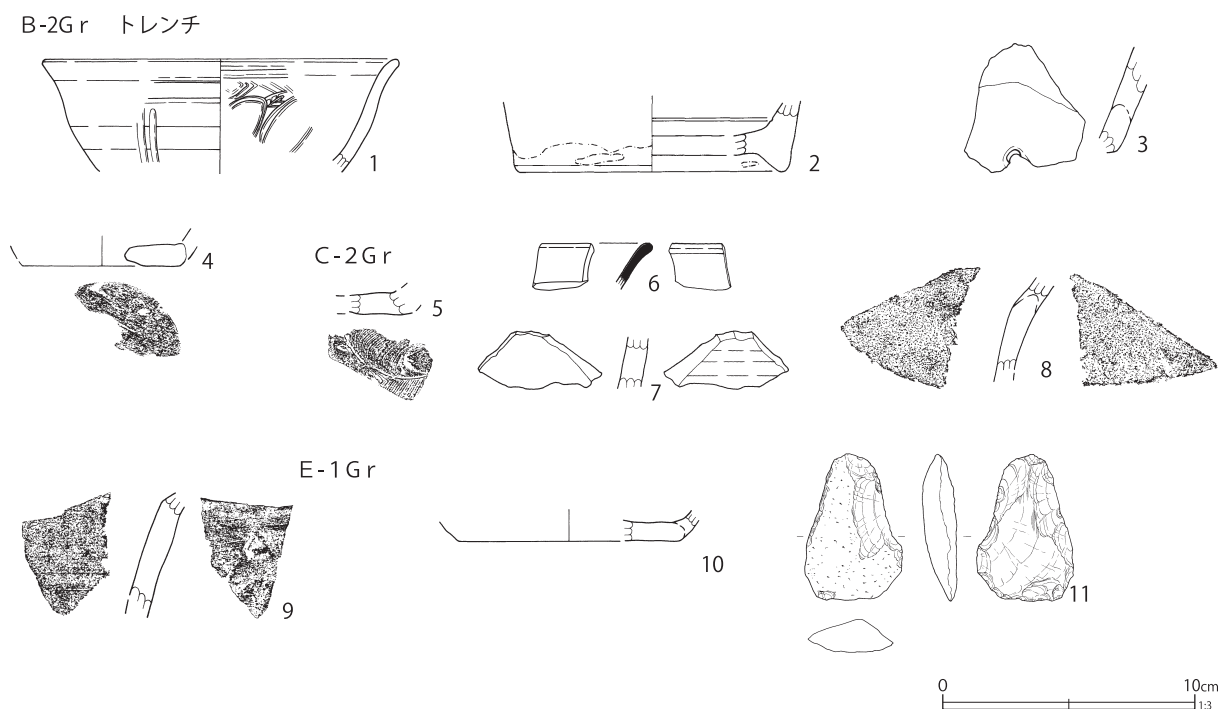
第9表 ピット出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	かわらけ	小皿	—	[3.00]	—	AK	5	不良	にぶい黄橙色	P6 非ロクロ成形	15-1
2	かわらけ	小皿	(7.2)	1.10	(4.9)	GI	50	不良	浅黄橙色	P9 ロクロ成形 底部静止糸切り	11-2
3	かわらけ	小皿	(7.9)	1.80	(5.4)	CEGHI	50	普通	にぶい橙色	P9 ロクロ成形 底部回転糸切り	11-1
4	かわらけ	小皿	8.1	2.10	5.3	CHJL	95	普通	にぶい黄橙色	P9No1 ロクロ成形 底部回転糸切り	
5	かわらけ	小皿	(6.4)	(1.60)	(5.1)	AHIK	5	普通	橙色	P9 非ロクロ成形	
6	瓦質土器	内耳鍋	(33.2)	[6.80]	—	BCDEGI	15	良好	灰白色	P42 P117	15-1
7	瓦質土器	壺	(14.0)	[4.10]	—	HIK	5	普通	にぶい黄橙色	P42	15-1
8	瓦質土器	鉢か	—	—	(8.4)	CDEGI	75	良好	灰黄褐色	P66	15-1
9	かわらけ	小皿	—	—	[2.2]	GIK	5	普通	にぶい橙色	P89 底部に焼成後尖孔あり 孔径(0.3)cm	15-1
10	陶器	甕	—	[3.60]	—	IK	5	良好	にぶい黄橙色	P116 常滑	15-1
11	瓦質土器	鉢	—	(3.30)	[12.7]	BDEIK	50	良好	灰黄色	P117	11-3
番号	種別	器種	法量					岩石種	備考		図版
12	石製品	火打石	長さ3.3cm 幅3.5cm 厚さ2.5cm 重さ31.1 g					石英	右側縁他を部分的に使用する		16-7

5. グリッド出土遺物

第30図1～3は、第2号溝跡と第30号土壌を貫く、東西方向に設定したトレンチ内から出土した。分布は西側に偏っており、第30号土壌に伴う遺物であった可能性が高い。1は中国龍泉窯系の青磁碗である。内外面に青磁釉を施し、内面に片彫りで文様を刻む。12世紀中葉から後葉の所産である。

2は中国産の白磁であり、器種は瓶類と考えられる。内面と底部は無施釉である。3は瓦質の鍋である。焼成後の尖孔痕が認められる。7は瀬戸美濃系半胴甕であり、18～19世紀の所産である。11は砂岩製の打製石斧である。分割礫の縁辺を加工する。装着部が一部摩耗する。



第31図 グリッド出土遺物

第10表 グリッド出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器(青磁)	碗	(14.0)	[3.70]	—	K	15	良好	—	B-2トレンチ 中国龍泉窯系 内外面青磁釉 片切彫で施文 12C中～後	10-7
2	磁器(白磁)	瓶類	—	[2.75]	(10.4)	K	25	良好	—	B-2トレンチ 中国	10-8
3	瓦質土器	鍋	—	[4.80]	—	CEG	5	良好	褐灰色	B-2トレンチ 焼成後尖孔あり	15-2
4	かわらけ	小皿	—	[0.90]	(6.0)	AEGIK	5	普通	にぶい橙色	B-2 ロクロ成形 底部に焼成後尖孔ありか	15-2
5	かわらけ	小皿	—	[1.00]	—	AHI	5	良好	橙色	C-2 ロクロ成形 底部回転糸切り	15-2
6	須恵器	坏	—	[1.80]	—	GIJ	5	普通	黄灰色	C-2 南比企地域産	
7	陶器	半胴甕	—	[2.00]	—	K	5	良好	灰白色	C-2 瀬戸美濃系 18～19C	15-2
8	瓦質土器	鍋	—	[4.20]	—	CGI	5	良好	にぶい黄橙色	C-2 砂を多量に含む	15-2
9	瓦質土器	鍋	—	[4.90]	—	AGHK	5	不良	橙色	C-2 外面煤少量付着	15-2
10	かわらけ	小皿	—	[1.20]	(8.8)	EGI	10	良好	にぶい黄橙色	E-1表採 ロクロ成形 底部回転糸切り	15-2
番号	種別	器種	法量				岩石種		備考		図版
11	石製品	打製石斧	長さ7.8cm	幅5.2cm	厚さ1.9cm	重さ71.3g	砂岩		表採		16-8

V 調査のまとめ

西浦遺跡第6次調査区は、平成5年12月1日から平成6年3月31日まで調査を行った第2次調査区（B区）内の西側にあたり、未調査部分に位置する。遺跡の概要において述べたとおり、西浦遺跡の過去の調査では、弥生～平安時代の遺構のほか、中・近世の溝跡・墓跡などが確認されている。発掘調査では、主に竪穴状遺構・溝跡・土壇・ピットなどが検出され、出土遺物からいずれも中世に位置づけられる。これらは、本遺跡の南東に位置する野本氏館跡に関連する遺構と考えられる。

第6次調査区で検出された遺構と遺物の時期

出土した遺物は、舶載磁器・国産陶器・瓦質土器・かわらけ・銭貨などである。舶載磁器・国産陶器はすべて実測図を掲載した。

かわらけの中には、非ロクロ成形の手づくねかわらけが一定数含まれていた。口縁部の破片から一段ナデを施すものが主体と見られ、時期は13世紀初頭から前半に位置づけられる。また、ロクロかわらけの多くは、胎土が手づくねかわらけと類似することや、復元された器形から、手づくねかわらけと一部並行する時期の13世紀代のものと考えられる。

舶載磁器のうち、青磁はすべて龍泉窯系の製品と考えられ、12世紀中葉から13世紀に位置づけられる。白磁の時期はばらつきがあり、それぞれ13～15世紀の所産である。国産陶器は、ほとんどが常滑製品である。胴部の破片が多く詳細な時期は特定できなかったが、第3号溝跡より出土した第10図8は口縁部の破片であり、13世紀後半に位置づけられる。また、第30号土壇より出土した第17図39は古瀬戸中期様式の折縁中皿となる可能性が高く、14世紀初頭のものと考えられる。

瓦質土器は鍋・鉢が主体であり、いずれも在地産と考えられる。時期は14世紀～15世紀前半までに位置づけられる。

ここで、出土遺物の時期範囲を確認しておく。まず、手づくねかわらけが一定数認められることから、出土遺物の時期の上限は13世紀初頭頃であり、下限は、瓦質土器などから15世紀前半頃までと考えられる。

また、陶器の主体が常滑製品であり、古瀬戸製品が少ないことにも留意しておきたい。当該地域において古瀬戸製品の出土例が増加するのは15世紀以降であり、出土した国産陶器の時期は、瓦質土器と同様の傾向を示すことがわかる。

次にこれらの遺物が伴う遺構について整理すると、大まかにではあるが、手づくねかわらけは、主に調査区北半部に位置する竪穴状遺構・土壇・ピットなどに伴う例が多く、反対に、これらの遺構からは瓦質土器の出土が少ない傾向が認められた。一方で、調査区南半部に位置する溝跡からは、瓦質土器が多く出土し、手づくねかわらけはほとんど出土しなかった。これは、検出された遺構の時期差を示すものと想定される。すなわち、溝跡は14～15世紀前半のものであり、その他の遺構は溝跡より一段階古い13世紀代のものが主体と考えられる。

墓跡である第16・24号土壇からは、銭貨が出土した。第24号土壇からは6枚が出土し、このうち5枚について銭貨名が確認できた。初鑄年が最も新しいのは1368年の洪武通寶であり、遺構の時期はこれより後に位置づけられる。

周辺の中世遺構との関連について

第32図に示したのは、本調査区と周辺遺跡の中世遺構である。道路幅の調査であり調査区の幅に制約があるが、南側の第44号溝跡より北側に、方形区画を成すとみられる溝跡が複数条確認できる（菊池2007）。本調査区第3号溝跡も、B区第24・25号溝跡に接続し、一辺50m前後の方形区画を構成するものと想定される。



第32図 西浦遺跡・野本氏館跡の遺構分布図

また、根石と見られる板状の石が検出されたP74・90は対になるものと考えられ、軸方位はほぼ真北を示している。これらは木戸や門の柱穴であったものと想定される。さらに、P74・90の西側には、P37・50・67・73・85が方位に多少のずれはあるもののほぼ真北を示して、1.5m前後の間隔で位置しており、P74・90に付帯する柵列となる可能性がある。このうちP37・50・67からは礫が検出されている。

中世遺構の分布は、第27号溝跡の北より薄くなり、西浦遺跡と北側で接する上川入遺跡の範囲に入ると、遺構・遺物共にほぼ検出されていない。このことから、野本氏館跡周辺に広がる関連遺構の分布の北限は、西浦遺跡の北側周辺に位置づけられよう。また、方形区画を構成する溝跡の軸方位は、野本氏館跡を境として2方向に大別でき、野本氏館跡以南では、南北軸がN-20°-W前後であるのに対して、第6次調査区を含む北側では、ほぼ真北を示す。

館の初代の主とされる野本基員が当地に移り住んだのは12世紀代後半とされており、館の成立をこの時期と考えると、手づくねかわらは館の成立後、初期段階の遺構に伴うものと想定される。

その後、江戸時代に無量寿寺境内から出土した梵鐘の銘文中に、建長6(1254)年の紀年銘と「野

本寺」の名称が見える。館との関連は不明ながら13世紀中葉に当地に野本寺と称する寺院が存在していたようである。その後、野本寺は現在に残る無量寿寺へ変遷すると考えられる。その理由と時期は定かではないが、記録上最初に「無量寿寺」の名称が現れるのは、応永23(1416)年銘の無量寿寺本尊修理胎内銘である。さらに、時期に齟齬はあるものの『新編武蔵風土記稿』には、野本寺は応仁の乱の混乱によって荒廃したが、長享年中(1487~88)に曹洞宗の寺院として再興され利仁山無量寿寺と号したとの記述がある。これらの記録と遺構の時期について必ずしも一致するものではないが、第3号溝跡の埋没時期は15世紀前半頃と考えられ、無量寿寺へと変遷するまでの過程で野本寺に伴う遺構が荒廃し、無量寿寺成立前後には、既に埋没していた可能性もあろう。

また、前述のとおり、溝跡の軸方位は2種類に大別できる。真北を示す地割が野本寺に伴うものと仮定すると、現在周辺に残る地割や野本氏館跡以南に分布する遺構の地割は、無量寿寺に関連する地割となる可能性が高い。そして、本調査区が該当する北側の地割では、溝跡と、ピット群周辺の遺構とで時期差が確認できた。野本氏館跡については不明な点が多いのが現状であり、今後の調査の進展を待ってさらに検討を重ねていきたい。

参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2008『愛知県史』別編 窯業3(中世・近世 常滑系)
- 菊池 真 2007『西浦／野本氏館跡／山王裏／銭塚』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第340集
財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 城倉 正祥 2017『文化財講演会 3D技術でせまる将軍塚古墳の謎 講演資料』東松山市教育委員会
- 中世を歩く会編 2002『在地土器検討会—北武蔵のカワラケ—記録集』中世を歩く会
- 市史編さん課編 1981『東松山市史 資料編第1巻 原子古代・中世 遺跡・遺構・遺物編』東松山市
- 福島 正義他 1985『東松山の歴史』上巻 東松山市
- 堀口 万吉 1986『埼玉県の地形と地質 1 地形』『新編埼玉県史 別編3 自然』埼玉県
- 水口 由紀子 2007『武蔵武士と経塚』『武蔵武士と寺院』『武蔵武士と寺院』シンポジウム実行委員会
- 山本禎・西井幸雄 1997『山王裏／上川入／西浦／野本氏館跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第184集
財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

写真図版



1 調査区全景（北から）

図版 2



1 調査区南側（南から）



2 調査区北側（北から）



1 調査区南側遺構検出状況（南から）



2 調査区北側遺構検出状況（南から）



1 第1号豎穴状遺構



2 第2号豎穴状遺構



1 第3号溝跡遺物出土状況（1）



2 第3号溝跡遺物出土状況（2）



1 第3号溝跡



2 石を伴うピットの分布状況



1 第1号土坑



5 第5号土坑



2 第2号土坑



6 第8号土坑



3 第3号土坑



7 第9号土坑



4 第4号土坑



8 第13号土坑

図版 8



1 第15号土壌



5 第22号土壌



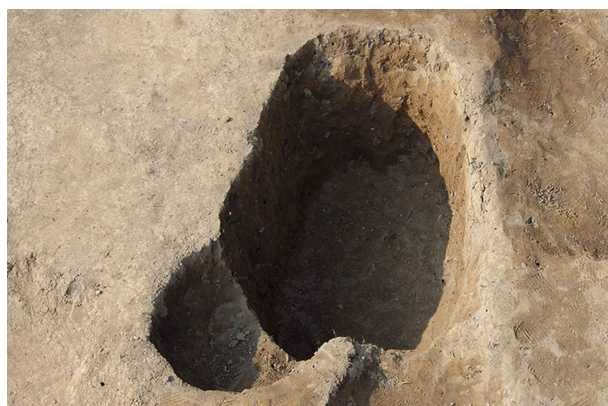
2 第17号土壌



6 第24号土壌遺物出土状況



3 第18号土壌



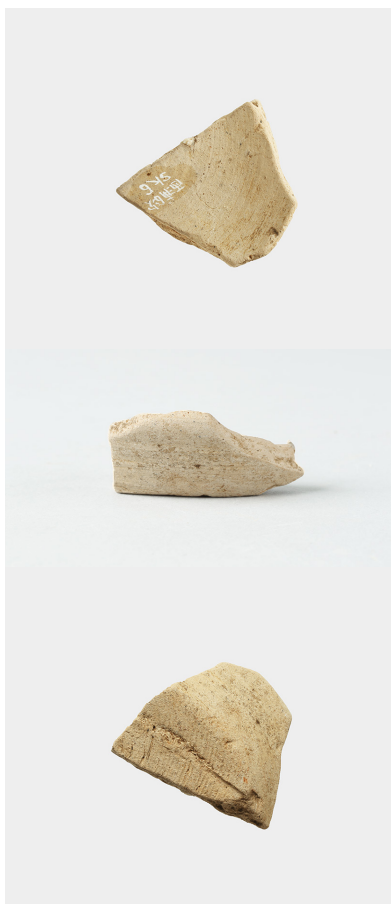
7 第24・25号土壌



4 第19号土壌



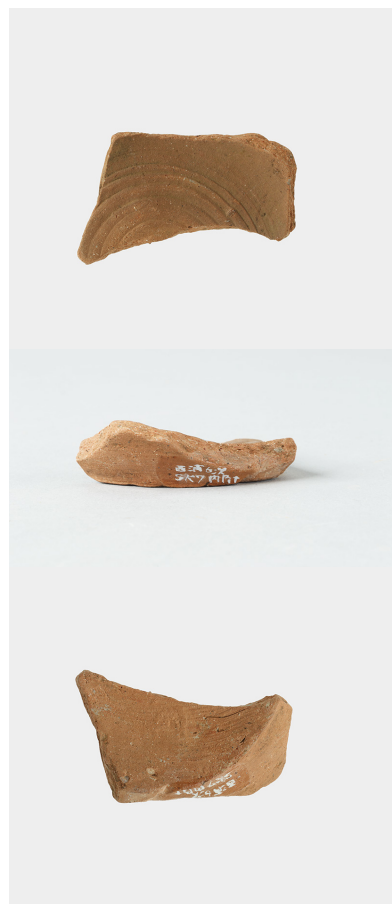
8 ピット9遺物出土状況



1 第1号竖穴状遺構 (第6图2)



5 第3号溝跡 (第10图7)



8 第7号土塊 (第16图19)



2 第1号竖穴状遺構 (第6图1)



6 第3号溝跡 (第10图4)



3 第2号竖穴状遺構 (第6图3)

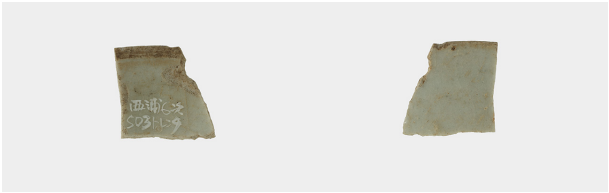


7 第3号溝跡 (第11图16)



4 第2号竖穴状遺構 (第6图5)

図版 10



1 第3号溝跡 (第10図6)



2 第5号土壇 (第16図12)



5 第30号土壇 (第17図39)



3 第11号土壇 (第17図30)



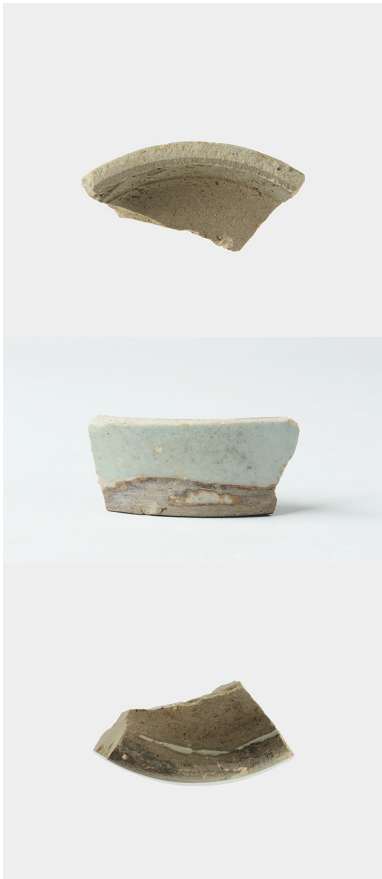
7 グリッド (1) (第31図1)



4 第16号土壇 (第17図29)



6 第30号土壇 (第18図47)



8 グリッド (2) (第31図1)



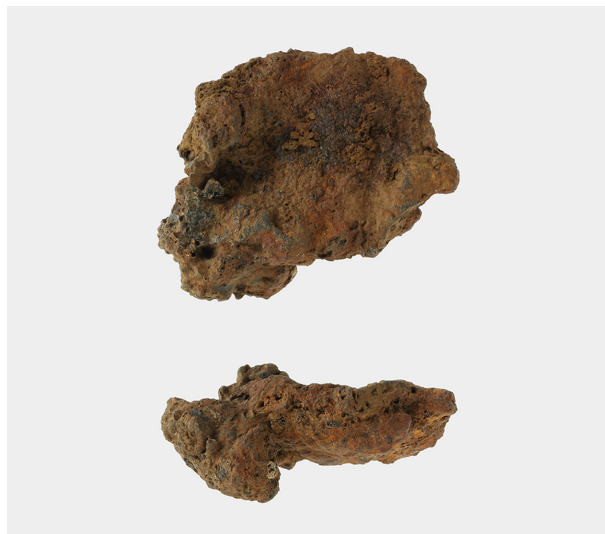
1 ピット (第30図4)



2 ピット (第30図3)



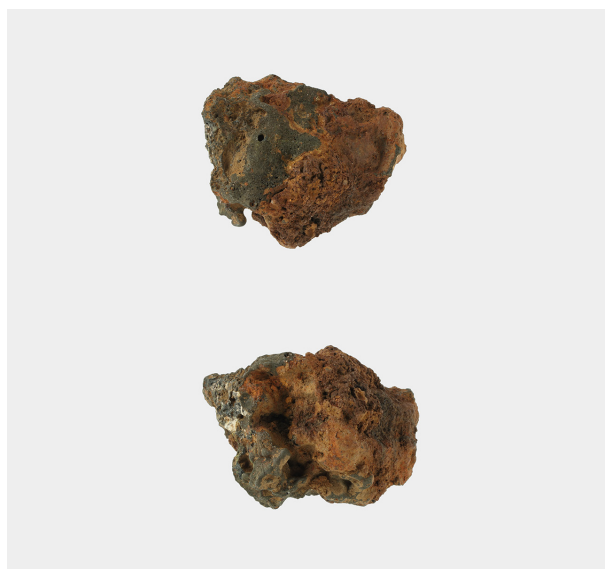
3 ピット (第30図11)



4 第3号溝跡 (第12図41)



5 第3号溝跡 (第12図42)



6 第30号土壌 (第19図59)

図版 12



1 錢貨 (第 19 図)



2 鉄製品 (第 6・19 図)



3 棒状鉄製品 (第 19 図)



4 溝跡 (1) (第 10・11 図)



1 溝跡 (2) (第 11 図)

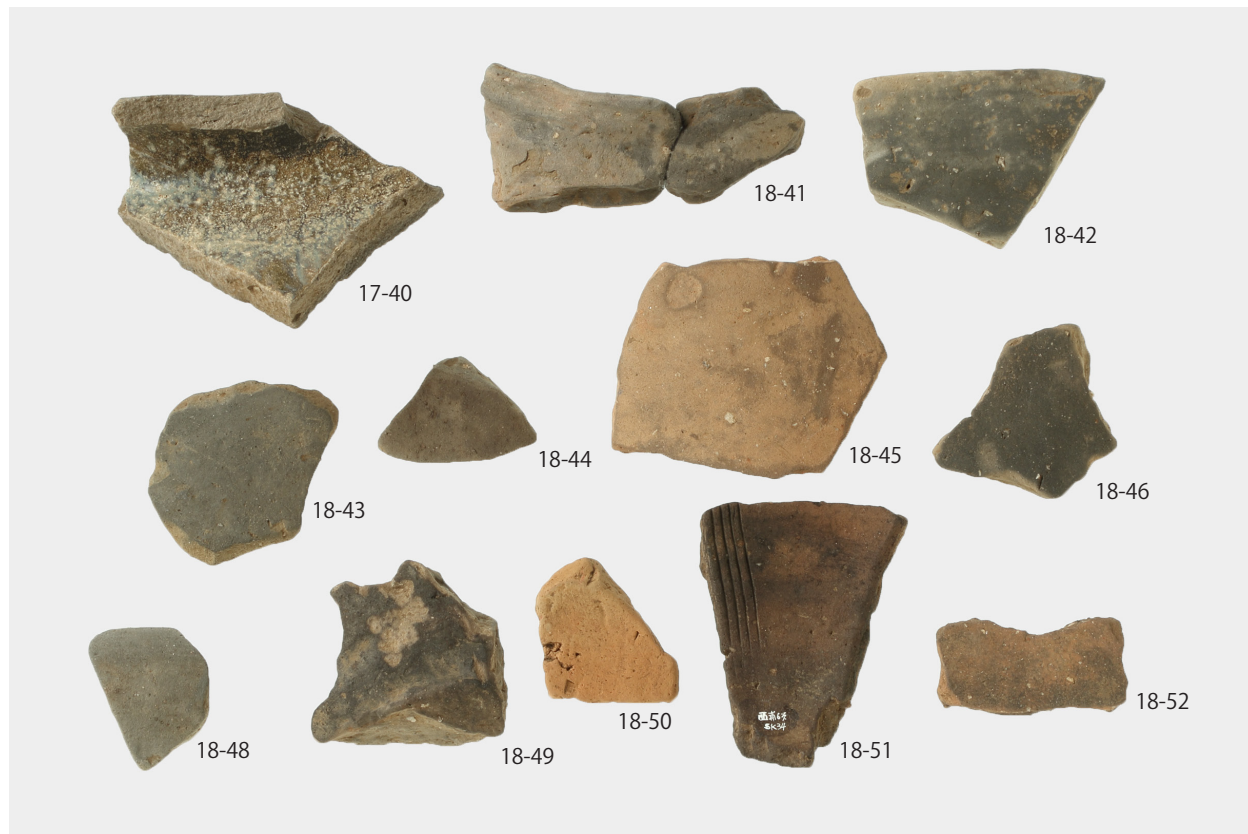


2 溝跡・土壙 (第 10・17 図)

图版 14



1 土壤 (1) (第 16 图)



2 土壤 (2) (第 17・18 图)



1 ピット (第 30 図)



2 グリッド (第 31 図)

図版 16



1 第3号溝跡 (第12図38)



5 第32号土壌 (第19図54)



2 第3号溝跡 (第12図39)



6 第34号土壌 (第19図55)



3 第3号溝跡 (第12図40)



7 ピット (第30図12)



4 第30号土壌 (第19図53)



8 グリッド (第31図11)

報告書抄録

ふ り が な		にしうらいせき													
書 名		西浦遺跡Ⅲ													
副 書 名		一般国道 4 0 7 号整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告													
シ リ ー ズ 名		埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書													
シリーズ番号		第 437 集													
編 著 者 名		砂生智江													
編 集 機 関		公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団													
所 在 地		〒 369-0108 埼玉県熊谷市船木台 4 丁目 4 番地 1 TEL 0493-39-3955													
発 行 年 月 日		西暦 2018（平成 30）年 3 月 22 日													
ふ り が な 所 収 遺 跡		ふりがな 所在地		コード		北緯 ° ' "		東経 ° ' "		調査期間		調査面積 (㎡)		調査原因	
にし うら い せき 西 浦 遺 跡 だいろくじ ちょうき (第 6 次 調 査)		さいたまけん 埼玉県 ひがしまつやましおおあざ 東松山市大字 しものもと 下野本 684 番 地 1		11212 168		36° 1' 13"		139° 24' 42"		20160601 ~ 20160731		283		道路整備	
所 収 遺 跡		種別		主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項					
西 浦 遺 跡 (第 6 次調査)		集落跡		中世		竪穴状遺構 2 基 溝跡 4 条 土壇 29 基 ピット 211 基		かわらけ 瓦質土 器 陶磁器 石製 品 金属製品 銭貨							
要 約															
西浦遺跡は、埼玉県東松山市下野本地内に所在し、都幾川の沖積地に面する低台地上に立地する。今回の調査によって、調査区の北半部から竪穴状遺構や、土壇、ピットが検出された。第 16・24 号土壇からは銭貨や金属製品が出土し、墓跡の可能性がある。また、いくつかのピットからは礫や板状の石が検出され、根石の可能性がある。これらの遺構からは、主に 13 世紀代の手づくねかわらけのほか、青磁、白磁の小片が出土している。 調査区の南半部には、主に溝跡が分布する。第 3 号溝跡は調査区内で L 字状に屈曲し、東側に隣接する西浦遺跡第 2 次調査区で検出された第 28 号溝跡に接続する。溝跡からは、主に内耳鍋や瓦質鉢などが出土している。															

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第437集

西 浦 遺 跡 Ⅲ

一般国道407号整備工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

平成30年3月15日 印刷

平成30年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 熊谷市船木台4丁目4番地1

0493（39）3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／株式会社文化新聞社